

船橋市 市民公益活動公募型支援事業 平成22年度 実施事業事例集



発行・監修 船橋市 企画部 市民協働課
取材・編集協力 平成22年度行政パートナー（市民ボランティア）

平成23年（2011年）6月

【市民公益公募型支援事業の概要】

地域の課題解決を進めていくためには、市民や市民活動団体などの地域に根ざした市民の手による、地域のための公益活動が必要とされています。新たな行政へのニーズが高まっているなか、市民の柔軟な発想や創意工夫を活かした提案を掘り起こし、市民協働の担い手となる市民活動団体を育成し、市民と行政がともに持てる力と知恵を出し合いながら進めていくことが重要になっています。

そこで、市民の皆さんによる地域に役立つ取組みに市が必要な支援を行うといった「市民との協働によるまちづくり」があらゆる場面で展開されるよう、「船橋市市民公益活動公募型支援事業」を平成22年度に創設しました。

この制度は、市民活動団体から提案のあった事業について、その内容を審査し、公益性や社会貢献性の効果がある事業に対して、市が支援金を交付するものです。

支援金の申請は「事業立上型」「事業提案型」の2種類で、それぞれ上限額と支援率を設定しています。「事業立上型」は、市民活動団体の設立後3年未満の団体が行う公益事業で、「事業提案型」は市民活動団体が主体となって行う公益事業か、市と市民活動団体が協働で行う事業が対象となります。

支援金の種別	支援率	限度額
事業立上型 設立から3年未満の市民活動団体が行う新規公益事業の実施に対し交付する支援金（交付は1回に限ります。）	支援対象経費の80%以内	20万円
事業提案型 市が市民活動団体から提案を受けた公益活動の事業費に対し交付する支援金（同一事業による継続は原則3年度を限度とします。） ※提案内容が特に公益性の高い事業であると認められたときには、支援率を80%とします。	支援対象経費の50%以内	100万円

対象となった事業は、支援金の交付により成果又は効果が期待できる事業として、平成22年6月1日から平成23年3月31日の期間内に着手かつ完了し、船橋市内で行われる地域課題の具体的な解決に向けて取り組む活動です。

申込みのあった事業の選定にあたっては、公募の市民委員を含む第三者で構成される「市民活動支援審査会」において、「公益性」「効果性」「適格性」「必要性」「新規性・アイディア性」「連携性・協働性」の観点に立った評価が行われました。



「市民活動支援審査会」による公開ヒアリング

【平成22年度実績】

	採択件数（申請件数）	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	7件（7件）	1,999,761円	1,169,822円
事業提案型支援金	20件（26件）	8,917,545円	4,604,520円
【合計】	27件（33件）	10,917,306円	5,774,342円

事業立上型 7件【支援率：支援対象経費の80%以内 限度額：20万円】

団体名	事業名称	ページ
アースドクターふなばし	子ども（小学生）を対象にした 体験学習「地球温暖化防止」に関するイベントの開催	3-4
丸山を元気にする会	丸山を元気にしよう！朝市、夕市の開催	5-6
ふるさとまちづくりの会	お休み処「かつしか」の設置	7-8
パートナーズ オブ ライフ	高齢者が生き生き人生を全うするための協働支援事業	9-10
公益社団法人 船橋地域福祉・介護・医療推進機構	シンポジウムの開催（介護現場における食のあり方）	11-12
船橋金杉club	地域交友促進サポート事業	13-14
NGO 三番瀬のラムサール条約 登録を実現する会	三番瀬の食文化と映像の出前講座	15-16

事業提案型 20件【支援率：支援対象経費の50%以内 限度額：100万円】

団体名	事業名称	ページ
船橋東交通安全協会 (社) 船橋交通安全協会	安全で市民生活に寄与する交通安全広報・啓発活動事業 (船橋市東部地区・西部地区)	17-18
船橋SLネットワーク	いざ災害！わが身はわが命は自分で守る	19-20
二和劇場ボランティア実行委員会	市民が創る二和劇場 初笑い二和寄席	21-22
NPO法人 シニア・システム協議会	NPO社会生涯大学「船橋（学友）大学」開校プレ事業	23-24
自転車運転マナー推進委員会	自転車運転マナー実践教室の開催	25-26
塚田環境フェア2010実行委員会	塚田環境フェア2010と15周年事業	27-28
原爆の絵展・平和のつどい実行委員会	平和啓発事業	29-30
0・2歳児親子遊び「かしの木会」	0・2歳児親子遊び事業「とんぐり会」「ジーバー会」	31-32
船橋美し学園街づくり館運営協議会	坪井地区（船橋美し学園）コミュニティ自立推進活動	33-34
自遊時感工房	地域におけるスポーツを通じた障害者の社会参加の推進	35-36
NPO法人 環境を考える市民の会	市民と育む海老川うるおい創生活動	37-38
NPO法人 囲碁文化継承の会	囲碁の普及と囲碁交流による健全な児童、健全な家庭 心身健康な高齢者、潤いのある地域社会づくり事業	39-40
船橋納税貯蓄組合連合会	租税納付及び広報活動関連事業	41-42
ふなばし街歩きネットワーク	船橋市における街案内ボランティア組織および人材育成事業	43-44
NPO法人 ベイプラン・アソシエイツ	船橋新交通・渡船 FunabaSeaBus(水上バス)	45-46
船橋商工会議所青年部	市民・来訪者が求める船橋市のアンケート調査事業	47-48
湖紫菀花のサークル	伝統文化子供いけ花教室	49-50
ふなばしっふ海遊創生協議会	「船橋お散歩海道」プロジェクト	51-52
船橋たばこ商業協同組合	クリーンな船橋の街づくりに寄与する運動	53-54

めざすはストップ地球温暖化

取材日：平成22年（2010年）8月26日

【活動目的】

3年前から成人・子供を含め幅広く「温暖化防止」活動を行っている。

- ① 市民として地球温暖化防止活動の実践
- ② 県、市、各種団体等が行う事業に協力
- ③ 地球温暖化防止についての研修会、出前講座、講師派遣
- ④ 行政、市民、企業などに対し提案・提言
- ⑤ 地球温暖化防止についての、自己研さん・調査

27名の志を持ったメンバーが公民館を中心に非常に活発に活動中。



手回し発電機の実験(環境フェアにて)

4年目の平成22年度の活動方針は

- ①小学生・子どもに対する啓発活動強化（夏休みこども環境講座など）
- ②出前講座事業の充実（緑のカーテン講座、自治会、学校などへ進出など）
- ③フェア・イベント事業の充実（環境フェア、生き生き展、塚田環境フェアなど）
- ④組織の充実（新会員リクルートで会員増など）
- ⑤ツール・備品の充実（模型、道具、実験グッズなど）
- ⑥地産地消の体験（米づくりなど）

自治会・学校へも拡大の計画でボランティアメンバー募集中。

【支援金事業内容】（支援対象経費総額 257,873円 支援金確定額 200,000円 支援率 77.56%）

体験学習を通じて地球温暖化防止の現状を知ってもらい、子ども及びその家族にできる温暖化防止対策を行ってもらうことを目的に、習志野台児童ホームにて「こどもエコ教室」を開催。

子どもたちが「地球温暖化の現状」を知り、感じ、自発的に生活の中で地球温暖化防止行動がとれるようになることを目指し、プログラムは

- ①DVDにて地球温暖化の実態、恐さを知ってもらう。
- ②太陽光を利用したソーラークッキングの体験。このタイヨウポップコーン作りは子供たちが非常に喜んだ。
- ③未来は変えられる—説明とクイズ問答
- ④手回し発電機で電灯（豆電球）をつける・風力発電機でオルゴールが鳴るなど体験
- ⑤燃料電池自動車の説明 など

支援金の用途は下記

1. 太陽電池・燃料電池による新エネルギーカー
2. ミニ風力発電機
3. 展示写真、パネル
4. LED、蛍光灯、電球の消費電力比較セット
等々たくさんの不思議グッズの制作 ほか



子どもたちに大人気のタイヨウポップコーン作り

【活動の現場から】

夏休みこども教室「地球温暖化から未来を守ろう」を見学（平成22年8月26日、於中央公民館）約10名のメンバーが、約20人の小学4～6年生に熱く語りかける105分は、有意義な時間であった。

- ①まずはDVDで10分間、北極グマの窮状を岩合光昭の美しい映像で訴える
- ②次は配られていた「こども環境白書」（地球温暖化）をもとに炭酸ガスなどの温室効果ガスの話。経済活動との関連など難しいところもあった。
- ③実験の体験学習は「人間電池を作ろう」というユニークな試み。こどもの夏休み自由研究になりそう。
- ④まとめのグループワークでは各自回答したアンケートをもとに、一人ひとり何をしているか、すべきかを考える。アースドクターメンバーの巧みな誘導により、子供たちは頭の中を整理できたようである。

中味も時間配分も良く考えて進行されていた。4年生も多く、みな熱心。6年生はさすがに理解が早い。付き添いの母親も楽しんでいるようであった。近場の船橋小の参加が多いのは当然としても遠い葛飾小などからも参加があり、皆楽しんでいた。

“めざすはストップ地球温暖化”をスローガンに掲げるだけあって大人も楽しめる子どもへの出前講座であった。



真剣な表情の子どもたち

【団体へのインタビュー】

アースドクターふなばし舛田代表ほか団体メンバーにインタビューした。

『今日のイベントは中央公民館の協力もあって20名前後の小学生が常に参加し4回とも楽しく交流・勉強ができました。これからは町会や学校への活動を広げていきたい。そのためにも船橋市の活動支援はありがたい。町会は船橋市自治会連合協議会を通じて活動提案をしているが、個別自治会にもアプローチしています。学校も簡単ではなく、まず個人的関係から開拓する。どこも、信用がつかと同種他団体のその後の受け入れが簡単になる。』

市民1万人につき一人の会員、すなわち60人くらい欲しい。情熱のある人なら誰でも会員になって欲しい』

関わり先（連絡担当者） アースドクターふなばし 事務局長 金尾 裕文 TEL：047-465-3827
--

丸山を元気にしよう！朝市、夕市の開催

取材日：平成23年（2011年）3月26日

【団体の活動目的】

丸山を元気にする会は、地元野菜などの地産地消を通じて「まちおこし」、商店街活性化を進め、丸山地区を元気ある街とすることを目的とする。加えて会員相互の親睦を図るものである。

【支援金事業内容】（支援対象経費総額 268,515 円 支援金確定額 200,000 円 支援率 74.48%）

活動内容は丸山商店街内で空いている倉庫、駐車場、幼稚園の園庭などを借りて月に1回、朝方実施の朝市や夏場は涼しい夕方に実施する夕市を、季節ごとに趣向を凝らしたイベントで開催することである。

朝市、夕市は地元の畑から収穫したての野菜を有志が持ち寄り、格安で販売する。また、地域のお母さんによる手作りグッズの販売、丸山商店街の有志による出店販売等で地域住民の交流を図り、地産地消と商店街の活性化をあわせて推進するものである。支援金は、主として地域住民に毎月知らせる広報用としてPR用チラシ、新聞広告カラー等の宣伝費と、開催のぼり旗やテントの設備費等に使われている。

【活動の現場から】

取材の当日は、地域住民有志が①安く新鮮な野菜 ②利益度外視の面白グッズ ③店自慢の品などを自主的に持ち寄り、世代間を越えた住民交流の朝市が開催された。

開催20分前から地域の人たちが集まり始め人気の野菜コーナーには行列が出来た。

参加者はお互いに世間話をしながら買い物をし、近くの店から出されたカレーライスやお弁当を買って、用意されたベンチで食事をしていった。（この日は時間帯が昼までであった）

この会場は工務店の協力を得て貸して頂き、倉庫の中で鉄板焼やその他、温かい食材を販売していた。料理はスタッフ（9名）全員で行い、温かいコロッケは行列が出来るほどで、中でもクリームコロッケは1時間で売り切れた。

子供コーナーも有り、子供（小学生）だけで玩具店を運営していて楽しそうに商売していたのは印象的であった。

出店数は10軒で、大人から子供までイベントを楽しんでいる様子がかがわれ、地域交流に大いに貢献している。金子代表のお話では今日は通常の150名程参加するであろうとの予測であった。



出品有志リスト



イベント開催全景

【事業に期待される効果】

地方の街の過疎化は全国的な問題で進んでいるが、丸山地区は住民が少ないのではなく宅地造成で増加の傾向であるものの、戸建の個人住宅が多く、地域住民交流の活性化は難しい現状である。

しかし、丸山を元気にする会のイベントは毎月回を重ねるごとに参加者が増え、お互いに挨拶を交わし話は弾む楽しい場になっていた。「街の活性化は地域住民の交流から」の狙いどおり、イベント開催1年目で地域住民による朝市の存在が地域の人たちに知れ渡り、毎月始まるのを楽しみにしているところまで成果を上げて来た。

来年はイベント内容で、市場運営企画段階から一般住民にも参加してもらい、内容をもう少し充実し、もっと大きな輪で地域住民交流活性化を進める方向である。

【取材を終えて】

街の商店街は、大手企業に太刀打ち出来ず過疎化が進んでいる。このイベントを通して地域住民の交流が活性化され、昔ただ買い物に来るだけの商店街から、人と人とのコミュニケーションの場として変わっていく事を期待したい。

この地区はそばに、丸山緑地という自然豊かな里山がある。「まちおこし」も地元商店街だけでなく、自然豊かな立地を生かして、緑地の保全に取り込んでいる市民活動団体などと協働して、多くの地域住民を巻き込んだイベントを開催する事により、もっと活発になって行くのではないだろうか、この事業の発展性を感じた。

関わり先（連絡担当者）
丸山を元気にする会
会長 金子 達雄
Tel：047-438-1704

まちなかお休みどころ「かつしか」の開設！

(市民交流の場、お休みどころでふれ合い)

取材日：平成22年（2010年）10月16日

【活動目的】

西船橋地区の実情（高齢者や身体の不自由な方、子連れの方には買い物が厳しい）を踏まえ、買い物の途中でもちょっと休める場所、交流の場所、誰でも気軽に立ち寄れる「お休みどころ」を西船橋商店街の中に設ける。代表の江口氏、中村氏が西船橋地区に暮らす高齢者や子ども達が、安心して生活できるまちづくりを目指し、市民大学校で学習したことを基本に活かし、西船橋地区で暮らして良かったと思えるまちづくりの実現。そのために、まず商店街にお休みどころ「かつしか」を設け、地域市民の交流の場を作る。海神、夏見など他のお休みどころも見学し、西船橋地区にふさわしい交流の場を提供することで活動を開始した。

【支援金事業】（支援対象経費総額 384,884 円 支援金確定額 200,000 円 支援率 51.96%）

西船橋駅前商店街の空店舗を活用して、市民が気楽に立ち寄り交流し合える場所お休みどころ「かつしか」を新規に設置する。支援金は本事業が新規設置であるためテーブルやイスなど初期投資に充当される。西船橋地区は高齢者、子育て世代が多いにもかかわらず気軽に交流できるところが今まで無かった。お休みどころ「かつしか」の設置により市民が交流の場として利用できるようになり、西船橋の市民によるまちづくりが前進している。

主な活動として、平成22年5月 まちの写真展。6月 かつしかの民話を聞こう。7月 革で小物づくり体験。8月 森の宝、木の実で作品をつくろう。9月 昆虫の写真展。10月 里の秋をみんなで歌おう。11月 毛糸でバックづくり体験。12月 松ぼっくりでクリスマスツリーづくり。平成23年1月 アフガニスタンの音楽を聴こう、シルクロードの旋律などがあり、話題には事欠かない。



お休みどころ「かつしか」



イベント「里の秋をみんなで歌おう」

【活動の現場から】

取材は10月16日（土）午後2時からJR西船橋駅北口より歩いて3分のお休みどころ「かつしか」で行われた。この日は船橋にゆかりのある斉藤信夫の童謡「里の秋」をみんなで歌うイベントがあり、約30人の老若男女がところ狭しと集まり、「里の秋」「赤とんぼ」など、懐かしい童謡を心行くまで熱唱していた。取材チームも童心にかえり年甲斐も無く大声で歌い、時間の経つのを忘れるほどだった。

平日は70～80歳代の利用が多く、イベントがあると20～30人が参加する。古い葛飾の写真を常時紹介していることで西船のまちの良さを知ることができた、長く住み続けたいという方も増えているという。

【支援金事業のもたらす効果】

一人暮らしの方がほぼ毎日訪れ、地域の古い話や戦争体験を話してくださったり、老人ホームにいる方が訪れ、ボランティアさんに手作りの袋を渡すのを楽しみにされたりするなど地域の皆さんの交流が進んでいる。独居老人はここに立ち寄ることで気兼ねなく交流できるので、引きこもりの予防になり、子育て世代は育児についての情報交換ができ育児ノイローゼなどの予防にもなる。またイベントに参加した子ども達は進んで挨拶するようになるなど、生き生きとした船橋のまちづくりの価値を社会に発信している。

【今後の事業活動】

地域の他の市民活動グループをはじめ、さまざまな人々がお休みどころ「かつしか」を通して出会い、交流し、楽しみ合う情報交換の場として活用していき、さらに商店会や地区社協との連携を進め、発展させる方向である。会員は現在募集していないが、ボランティア（現在10人）は口コミで参加している。とにかく始めてみて、やっているうちにアイデアも出てくると、豊富な経験を活かした継続的な事業展開を目指している。

【取材を終えて】

市民交流の場、お休みどころ「かつしか」。代表の江口氏、中村氏は船橋市民大学校ボランティア学科の卒業生である。西船橋のお休みどころの開設による市民交流が研究テーマあり、他のお休みどころを見学した上で、西船橋に合致したお休みどころを実際に開設したことは、素晴らしい取り組みである。お休みどころ「かつしか」が市民交流の場として地域の人たちとの関わりを深め、ますます発展することが期待される。

関わり先（連絡担当者） ふるさとまちづくりの会 代表 中村 恵子 TEL：080-3388-6968

高齢者が生き生き人生を全うするための協働

取材日：平成22年（2010年）9月17日

【活動目的】

パートナーズオブライフ（POL）の活動目的の一つは、高齢者でも出番のある社会を目指し、傾聴を基盤とするキメの細かい高齢者向け福祉事業で社会参加し、利用者との“こころの交流”を図り、共に生き生きとした人生を全うすることである。

POLは、船橋市福祉サービス公社の「傾聴ボランティア養成講座」を受講した第3期生の有志が発起人となって平成19年5月に設立された団体である。その主な活動内容は、①傾聴のスキルを習得した会員による、在宅高齢者や福祉施設利用者の“こころ”を丁寧に聴く傾聴ボランティア活動、②高齢者施設側と協働した余暇活動の支援活動、③会員ボランティア員の教育研修スキルアップ活動等である。

【支援金事業】（支援対象経費総額 110,442円 支援金確定額 70,000円 支援率 63.38%）

事業立上型として採択された内容は、船橋市内の特別養護老人ホームやディサービスセンターを舞台に、近隣の高齢者や小学生を招待し、施設利用者と共に昔懐かしい遊びや紙芝居等の縁日祭りをを行う。祭りの終了後に全員で懇談する。後日、高齢者心理の専門家を招き、高齢者福祉に関心のある一般公募の方も参加して、検討会を開催し、改善点を探りながら次の縁日祭りに反映させていく事業である。

施設利用の高齢者と子ども達が、昔懐かしい紙芝居、こま回し、けん玉等の遊びを通して一緒に楽しんでもらい、高齢者には心の安定と活性化を期待するとともに、孫の世代には世代を超えた自由な交流な場を提供し、地域コミュニティの回復・充実に少しでも寄与していきたいとの思いが込められている。

【第一回縁日祭りの開催】

今年度の第一回縁日祭りは、8月27日（金）午後2時から3時まで船橋健恒会ケアセンターで開催された。1階ロビーを使って行われ、近隣の子ども、健恒会利用者など総計63名の参加があった。当日は、旧文部省唱歌の合唱からプログラムが始まり、支援金を活用して紙を大きくした紙芝居（好評であったとのこと）、こま遊び・ダルマ落とし・けん玉・紙風船・糸電話・折り紙等の昔懐かしい縁日遊びに大いに盛り上がったとのことだった。

しかしながら、遊んでいるうちに3時のお茶の時間となってしまう、参加者との話し合いを持つ時間が得られなかったとのこと。後日、小学生から「大変勉強になった」、健恒会からは「成功だった」との感想が寄せられているとのことだった。

参加人数については、当初近隣の子ども達をできるだけ多く（20名程）集めたいとして、8月7日の当健恒会で開催された夕涼み会で、「昔懐かしいおもちゃで遊ぶ」コーナーを設け、体験の傍ら、付き添いの父兄に縁日祭りの案内ビラを約80枚配布したそうだが、結果的には5～6年生中心に6名の生徒の参加にとどまったとのことだった。この点に関しては、PTAや小学校の組織にも働きかけた方がよかったかもしれないとの意見も出されていた。

なお、今回の反省を踏まえ、第二回縁日祭りが9月25日に朋松苑（ディサービスセンター）にガールスカウトを交えて開催されることになっている。また、今回の支援金事業の一環として、専門家によるセラピー講演会が10月12日に行われる予定になっている。



好評を得た紙芝居

【事業に期待される効果】

本事業の効果について、高齢者が縁日祭りをきっかけに昔のことを思い出し、話し合うことによって、自身の置かれている現状を認め、生きる力を獲得できるいわゆる回想法の効果を挙げている。孫世代の子ども達にとっても、日頃身近ではない祖父母世代の高齢者に接することにより、家族や学校では学べない多くの経験、知恵、歴史、そして情操等の取得・体感ができるとしている。

主催者側にとっても、準備段階から祭り当日までの活動を通してPOL会員自身にも得るものが多いにあったようである。

事業内容がなぜ縁日祭りなのかについては、子どもと高齢者がともに楽しめることを挙げている。高齢者には認知症予防と進行抑制効果、生き生き人生の全うといった回想法の効果、子どもにとっては遊びの場になり、知識・経験・知恵・情操・礼儀の取得につながっていくものであるとしている。

【今後の活動】

21年度までは高齢者施設利用者の縁日祭りにとどまっていたが、今年度から地域の子ども達を巻き込んだ「縁日祭りⅡ」を開催している。今後の対象について、将来的には小学生から中学生、高校生、大学生、さらには現役世代をも組み込んで、世代を超えた交流による新地域コミュニティの創世を目指していきたいとしている。

そのためにも、会員ボランティアの拡充・強化が急がれるとのことで、独自の教育研修スキルアップ活動も展開しているようであるが、思うようにいってはいないとのことであった。現時点の会員14名中ほとんどの方が傾聴ボランティアの高度のスキルを有しているが、同程度のスキルを有した人の参加が現状では見込み薄とのことで、このままでは会の存続も近い将来、危機に直面しかねない深刻な状態でもあるとのことであった。

【取材を終えて】

本事業の目的について、高齢者が生き生き人生を全うでき、同じ保護対象である子ども達と一緒に地域コミュニティの復活を目指していくことが挙げられている。現状の地域コミュニティは様々な要因が絡んで益々衰退化しつつあると言われていた一方で、趣味やサークル活動は活発化してきているともいえる。地域コミュニティの回復・充実に向け、高齢者同士、そして孫の世代も加わった自由に交流できる場を協働によって提供していきたいとの本事業の熱き想いには大変心が打たれるものがあった。

関わり先 (連絡担当者) パートナーズオブライフ 代表 鈴木 輝喜 TEL : 047-464-1455

「介護現場における食のあり方」のシンポジウム開催

取材日：平成23年（2011年）2月20日

【活動目的】

介護現場、特に在宅にあつては、近年の核家族化及び高齢化の進展により、家庭での介護が非常に難しくなっている。特に、介護において欠くことのできない介護現場の「食」に的を絞って、様々な課題と課題解決するための方策を確立する。シンポジウムを通して、介護現場のみならず一般市民に広く食の大切さを理解してもらい、地域福祉に貢献することを目的としている。

【支援金事業内容】（支援対象経費総額 576,277円 支援金確定額 196,000円 支援率 34.01%）

福祉・介護・医療の各現場で活躍している方々や一般市民の方々を対象として、命にかかわる「食」を主要テーマに絞り、「介護現場における食のあり方」のシンポジウムを数回開催して、食の大切さを浸透させる。また、生産者やパティシエといった介護とは違った角度からの提案により、船橋における旬の美味しい食材提供の望ましいあり方確立を目指す。

① 第一回公開シンポジウム「介護現場における食のあり方」開催

☆日時 平成22年7月4日（日）13時30分～15時00分

☆会場 板倉訪問クリニック内

☆内容 食材の購入から調理、食べ方にいたるまで、介護現場の専門家から意見を聞き介護士、栄養士、医師、ケアマネージャー等それぞれの視点から「食」のあり方に関する課題を洗い挙げて、解決策を考える。

② 第二回公開シンポジウム「介護現場における食のあり方」

『命としての「食」・楽しみの「食」そしてつながる「食」』

☆日時 平成23年2月20日（日）11時00分～15時00分

☆会場 ららぽーとTokyo-bay センターコート

☆基調講演 『認知症診療における介護と「食」』

☆第一部シンポジウム 『介護現場における「食」』

☆第二部シンポジウム 『千産千消で旬の「食」』

【第二回公開シンポジウムの模様】



基調講演



第一部シンポジウム

【事業に期待される効果】

シンポジウムを継続的に開催することで、地域で介護世帯をサポートするためのシステム作りへの一歩となる。また、地域での食材を提供すること（地産地消）は、地域住民とのコミュニケーションを広げるきっかけとなる。

将来的には、食材または食材を調理用にカットしたものを配送することにより、介護世帯のみならず独居老人世帯などで、介護を必要としていても手続きや家庭の事情などにより、介護保険の対象から洩れている世帯の掘り起こしもつながることが期待される。



会場となったセンターコート



出展ブースによる展示

【取材を終えて】

今後、高齢化に伴い何らかの障害により正常に食事を摂取が出来ない人の増加が予測される。人が生きてゆくために不可欠な食事が、様々な症状のために正常に摂取出来なくなることは、本人のみならず介護されている家族の方々も辛く苦しいものである。改めて「食」に関する地域とのコミュニケーションの大切さを痛感した。

シンポジウム会場は、午前中の早い時間には若干空席もあったが、時間が経つにつれて興味を示す聴衆も増えて目的は達成されたものと思われる。当日の会場には、7箇所のブース（①小松菜パウダー会、②五つ星お米マイスターの店、③フクダ電子テルモ、④株クリニコ、⑤EN 大塚、⑥石井食品、⑦パラマウントベット）が設けられ、嚥下（えんげ）困難向けゼリーや介護食の試食も行われていた。

また、千産千消（地産地消）では、西船の小松菜とお米マイスターのPRに人が集まっていた。その他、AED講習、血糖値・骨密度測定、血管年齢・肺年齢測定が行われ、特に血糖値や骨密度測定には順番待ちで人気があった。

関わり先（連絡担当者）

公益社団法人 船橋地域福祉・介護・医療推進機構
事務局 鶴澤 龍一

Tel : 047-464-6266

地域交友促進支援サポート事業

取材日：平成22年（2010年）11月29日

【団体の活動目的】

船橋金杉clubは、金杉台団地周辺地域の有志の人々で集い、有志企業の協力のもと、地域コミュニティ力の強化の為にイベントを行いつつ、地域全体での未来を市民の手で作り上げていくことを目的とする。

【支援金事業内容】（支援対象経費総額 224,741円 支援金確定額 179,793円 支援率 80%）

- ①子供や若者とお年寄りとの簡単なワークショップや交流会による地域活性化
- ②自然と触れ合う定期的な散歩会による地域コミュニティの活性化

【活動の現場から】

平成22年11月29日、金杉台小学校（図工室）にて開催された、自然の良さを知り地域コミュニティを活性化させるコンセプトの「押し花教室」取材した。

講師は市川市工芸連盟会員の方が務め、生徒側は小学5年生50名が集まって開催された。

金杉台小学校は地域コミュニティ強化に対し積極的に協力的で、小学校の図工室を提供して頂いた。



押し花指導スタッフのミーティング



熱心にピンセットで押し花を並べる小学生

今回の作業は、予め作っておいた草花の押し花と飾り用の切り紙など、それぞれのパーツを、自分なりにピンセットを用いてデザインを考えながら配置し、その上に透明な専用保護シートを貼り付けて出来上がりとなる作業でした。

小学生がピンセットで折れやすい押し花を扱うのは難しそうにみえたので終了後、インタビューしたところ「ピンセットの扱いは難しかったけど面白かった」とのこと。出来た葉書はとても綺麗で、子ども達は満足そうでした。

中村代表は今日の活動効果として、「この実習結果を家に持ち帰り、出来た葉書を家族にみてもらうことで、多くの人が谷津田里山の草花にも関心を持って欲しい。地域ぐるみの自然保護活動を通して、地域コミュニティが活性化する事を期待し、今後も活動を進めたい。」との事でした。

【事業に期待される効果】

2010年6月から2011年3月までに開催する事業は、ほぼ毎月1回（6月は2回）年間11回のスケジュールを計画されており、小学校の積極的な協力もあって、この地域の豊かな自然環境を利用した地域コミュニティの活発化が期待される。

【取材を終えて】

地方の過疎化現象は全国的な悲しい現状であるが、過疎化地域は自然豊かな里山や森が多く残っており、この自然を利用して地域コミュニティを活性化させるため、または、活動を持続させるためには里山のエコバザール(注1)のような経済循環の仕掛けがほしい。

たとえば、山菜、押し花カード・地域野菜の販売、有料鍋大会等検討してはと感じた。人材であるが、現在常時活動されているのは中村代表ご夫婦、金子、市川自然動植物園学芸員と学生数名で、学生が卒業すると活動人数が不足になり活動がなかなか進まなくなる事が懸念される。

今後、常時活動できるメンバーが充実すれば、さらに活動の幅を拡大できるのではないかと考える。

(注1)：環境に配慮した食料、衣類、化粧品などの市場での販売

関わり先（連絡担当者）

船橋金杉 club

会長 中村 哲雄

TEL：047-448-4669

三番瀬の食文化と映像の出前講座

取材日：平成22年（2010年）11月29日

【団体の活動目的】

東京湾に僅かに残された、三番瀬の豊かな自然環境を保全するため、ラムサール条約に登録する事を目的とし、市民、県民及び行政、企業、大学等に参加を呼び掛け、豊かな三番瀬をより多くの人に知ってもらうために活動する。

【支援金事業内容】（支援対象経費総額 177,029 円 支援金確定額 124,029 円 支援率 70.06%）

①三番瀬の魚・貝・海苔等、自然に触れ合い、地元の漁師さんより直接、海の説明を聞きながら自然を体験し、三番瀬の自然の大切さを知ってもらうイベントを行う。

②三番瀬や東京湾でとれた海産物を参加者が直接料理し、東京湾の食文化の普及を行う。

以上2件を実現するために、年六回の出前講座により活動を予定している。

予算項目内容は、三番瀬カラー写真パネル展示用材料費、出前講座講師謝礼金、食文化体験用食材費、イベント案内や活動紙等、会場費等

【活動の現場から】

活動は主に、新鮮な食材がすぐ使われる船橋港の近くにある浜町公民館の調理自習室で、三番瀬の食文化を広める活動現場を取材した。食材は新鮮なアジ、コウイカ、サバ、生ノリ等使い、公民館の隣の三井ガーデンホテルの和食料理長の指導により、各自アジの捌き方から始めアジ寿司を完成させ、コウイカの捌き方（皮むきも含め）ゆでるまで等懇切丁寧に教えてもらい、最後の味付けはコックさんがチェックし、調味料で修正した。



講師よりサバの捌き方の指導を受ける



アジの寿司ネタ作り

その時々の食材によりレシピを考え、調理方法はプロのノウハウを惜しみなく指導して頂き、とても為になる実習でした。料理が出来ると団体から講座の趣旨として、三番瀬の大切さ、活動報告、スタッフの紹介をし、講師から今日の料理のポイントと食材の生かし方のワンポイントレッスンがありました。

この後全員で試食しましたが、味は一流ホテル並みの美味しさで、特にアジ寿司は魚の香りがこんなに良い事を始めて知りました。参加されている方々は何らかのボランティア活動をされている方が多く、船橋市を良くするための活動の紹介があり、大変盛り上がりました。

最近、東京湾の魚も種類や量が増えだし、徐々に昔の豊かな海に近づいているとの話が、船橋港関係者から報告があり喜ばしいことでした。



事業の趣旨と活動説明



全員で試食

【事業に期待される効果】

船橋三番瀬の食文化を通して活動する団体と、参加している皆様の熱意が良く伝わりました。地元で捕れる魚はスーパーで購入する魚と違い、形は小さくとも新鮮で、また、その食材に合った料理をすればホテル並みの美味しさが味わえます。三番瀬を始めとする東京湾の恵みの大切さが良く分かりました。

今後、この活動を普及して行けば、地産地消を推進するとともに東京湾の自然豊かな水産資源を20年前（現在漁獲高は半分）に戻したいという思いが、市民の皆様に伝わって行くでしょう。

年5回開催を予定しているイベントも、若いサラリーマンや学生への宣伝を広く行う事により、市民がもっと三番瀬の大切さ、東京湾の利用の仕方に気付くと思われまます。

団体の代表も船橋の森や川や湿地を大切に、生物多様な生態系を保全する事が大事であると力説されていました。



参加者記念撮影

【取材を終えて】

漁業の活動は、地方の過疎化現象と同じく、全国的に悲しい現状である。海は、北海道の昆布、仙台のカキ、広島のカキに見られるように、森や川の豊かさを再生して初めてその復活が実現できるものである。今、里山、川、湿地、湧水等大切に守っている団体が多く有ります。行政と協働で活動を広げて行く事が、持続する活動に成るのではと強く感じました。

関わり先（連絡担当者）

NGO三番瀬のラムサール条約を実現する会
事務局 渡辺 優子

TEL：047-423-3607

安全な市民生活に寄与する交通安全広報・啓発活動

取材日：平成22年（2010年）12月10日

【活動目的】

戦後（昭和23年以降）わが国は自動車社会へと著しく発展し、それに伴い交通事故、事故死も増え、社会問題となっている。千葉県に於いては、昭和24年千葉県交通安全協会が組織され、その後、各警察署に下部組織である地区交通安全協会が順次設立された。

（社）船橋交通安全協会は昭和26年に、船橋東交通安全協会は昭和57年に設立し、船橋市及び船橋警察署、船橋東警察署と連携して地域住民の交通安全を図るための広報・啓発活動や交通道德の普及を浸透させ、市民の交通安全を確保することを目的とする。

【支援金事業】

（社）船橋交通安全協会（支援対象経費総額 806,828 円 支援金確定額 364,000 円 支援率 45.11%）
船橋東交通安全協会（支援対象経費総額 679,170 円 支援金確定額 339,585 円 支援率 50%）

船橋市との連携による交通安全活動の実施

- （1）毎月10日「交通安全の日」には、交通指導員による街頭活動、啓発品を運転者に配布し安全運転の励行を呼びかける。
- （2）管内小学校で開催される交通安全教室に交通指導員も参加し安全指導をする。
- （3）市内小学校の新入学児童の交通事故防止の為、交通安全啓発品ランドセルカバーを約6,700人分贈呈する。
- （4）全国交通安全期間中（春、夏、秋、冬）にキャンペーンを実施し運転者、歩行者の安全の意識づけを呼びかける。

支援金の用途

- ①交通安全啓発チラシ
- ②サイクルリフレクター
- ③ボランティア保険料
- ④反射シール、反射たすき
- ⑤交通安全標語入りポケットティッシュ、ボールペン
- ⑥ビニール製横断旗、
- ⑦旗入れ缶
- ⑧ランドセルカバー

【活動の現場から】

“み～んな厳罰”（飲酒運転防止）及び全座席のシートベルトの正しい着用の徹底

本年度の活動は毎月10日、船取線の芝山団地入口交差点に於いて船橋市、船橋警察署、船橋東警察署主催のもと行われており、それと連携して活動する。取材当日は両団体（参加人数およそ70名）が参加して午後2時～3時に実施した。当交差点は両警察の管轄境界に当たっており、船橋警察署管轄に入って来る車を船橋交通安全協会が、船橋東警察署管轄に入って来る車を船橋東交通安全協会が受け持ち、交通の渋滞を生じさせない様に注意して、運転者の理解を求め実施した。実施にともない運転者が気づいてブレーキをかけ、安全走行をする状況がみられた。

同時に年末にあたり重点目標としている“み～んな厳罰”（飲酒運転防止）活動とシートベルトの着用を挙げ特に後部座席着用率が低いためこの活動が強調された。



活動に向かわれる両団体の皆さん



一台一台に安全運転を呼びかけます

【今後の活動】

従来の交通安全活動に加え、主に学童、生徒の保護者を重点としてこれまで全く設置されていなかった市内の交差点、通学路等の横断歩道に横断旗入れの整備を図りたいと思っている。また来年度から順次学校周辺の歩道にストップマークの設置を検討する。その他引き続き市内小、中学校対象の交通安全作文コンクールを実施する。

【取材を終えて】

社団法人は制度変更により、一般社団法人と公益社団法人に分かれる。それに伴い「社団法人船橋交通安全協会」は、現在一般社団法人への移行期にある。また「船橋東交通安全協会」も地域に密着したボランティア団体であり地域交通安全に貢献している。今後とも活動の継続を期待する。

関わり先（連絡担当者）

（社）船橋交通安全協会

事務局 土屋 正義

TEL：.047-425-2102

船橋東交通安全協会

事務局 石田 富蔵

TEL：047-467-9088

いざ災害、わが身わが命は自分で守る

取材日：平成22年(2010年)11月11日

【団体の活動目的】

船橋SLネットワークは、近い将来予想される大規模災害に備えて、災害救援ボランティアとして訓練を行い、地域防災に貢献することを目的として平成18年10月に設立され、会員は船橋市、習志野市、鎌ヶ谷市在住のセーフティリーダー（Safety Leader）45名により構成されている。

(注) セーフティリーダーとは阪神・淡路大震災（1995年）の教訓をもとに設立された、民間団体の「災害救援ボランティア推進委員会」が、災害救援ボランティア活動を希望する人を対象に一定の講座を開催し、修了者をセーフティリーダーとして認定している。

セーフティリーダーは「わが身わが命は自分で守る」というボランティアの基本精神を発揮して、日常的な地域の結びつき、助け合いを大切にしながら、いざという時には率先して自らがその場においてリーダーとなり、まわりの人に呼び掛けて一人でも多くの人を救い、被害を最小限に軽減する活動を行う。

【支援金事業内容】（支援対象経費総額 133,514円 支援金確定額 66,757円 支援率50%）

船橋市内の自治会連合協議会、地区社会福祉協議会や地域の防災活動のリーダーなどを対象として公民館等を利用し7地区の講座を開き、もし大災害が発生した時にリーダーとして活動できるように避難所の運営、応急救護法などのスキルアップの支援を行う。

事業の費用は講師謝金、消耗品（三角巾、ゲームカードなど）、印刷製本費、会場使用料などに使用される。

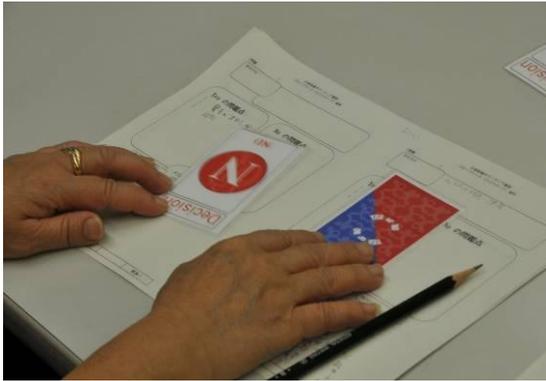
災害救援ボランティアの重要性については、これまで市議会でも採り上げられており、当事業の支援を受けることにより、上記の協議会ならびに地域団体と連携して開催できるよう期待している。

【活動の現場から】

平成22年11月11日（木）に船橋市男女共同参画センター（宮本2丁目）において、「防災講座」が開かれたので取材にうかがった。市内の15名の方々が参加し、内容は「女性ボランティアによる体験談」「非常食を食べてみよう！」「クロスロードゲームをやろう」であった。午後からの取材であったのでクロスロードゲームを参観した。クロスロードゲームというのはカードゲームで災害対応を疑似体験し、自分がどのように行動するかシミュレーションするゲームである。

例えば、大地震が起き30分位で津波が来ると予想されているが、まだ高台の避難所に来ない人がいる。地域リーダーのあなたは探しに行くか、避難所にとどまるかとの設問に対し「YES」か「NO」のカードを選択する。それを参加者全員（5人の3グループ分け）が自分の判断した理由をそれぞれ述べる。特に「YES」と「NO」の数の多さでグループの結論を決めるわけではなく、次の設問に移っていく。脇で見守っているSLネットワークの講師（4名）は、その時の予想される状況（津波が予想よりも早く来るかもしれない。もし探しに行けば自分が津波に襲われるかもしれないなど）をアドバイスし、セーフティリーダーとしての決断力を問うている。

いくつかの設問が提示され、最後にグループの代表者が、一番判断が難しかった設問についての意見交換の状況を述べた。片桐代表はその説明に一つ一つ丁寧にコメントされた。



クロスロードゲーム



設問に対する参加者の意見交換

【事業に期待される効果】

近い将来予想される大震災に対し船橋市としても防災計画が検討されている。船橋 SL ネットワークは大災害発生時の家族ならびに地域の防災活動のリーダーを支援育成するため、市民への地域密着型の講座を開設していることは、非常に意義ある活動と思われる。地区社会福祉協議会など地域団体も災害時対策を重要課題として取り組んでおり、それらと連携した講座を開くことにより更なる広がり効果が期待できる。



グループ毎の結果発表



スタッフの皆さん

【取材を終えて】

講座の終盤には講師側から安心登録カード、災害用伝言ダイヤルや避難場所のプライバシーなどについて講話があり、実例と豊富なノウハウにより参加した市民が理解できる講座内容に努めていることが感じられた。防災の大切さを学んだ講座であった。

関わり先（連絡担当者） 船橋SLネットワーク 代表 片桐 卓 TEL：047-474-7685
--

市民が創る二和劇場 初笑いふたわ寄席

取材日：平成23年（2011年）1月27日

【活動内容】

小ホール的な機能を備えた二和公民館の講堂（定員349名）は、可動式椅子で客席が設置でき、舞台、楽屋、音響、照明を備える船橋市内でも数少ない恵まれた施設である。この貴重な財産の有機的な活用を図りながら更なる文化芸術の振興に向けて、市民による舞台裏方ボランティアとして地域の文化を公民館スタッフと一緒に育てているのが「二和劇場ボランティア実行委員会」（愛称、ふたわ影丸）である。

ふたわ影丸は、同館で行われた「裏方講座」の音響・照明・舞台の3回講座を受講した人たちが中心となって、地域の舞台をプロデュースしようとの思いから、平成19年4月に公民館側の呼びかけで立ち上がったボランティアグループである。メンバーの年齢層は幅広く、同館技術スタッフの指導を受けながら幅広い活動を行っている。その内容は、広く地域芸術活動の振興を図るために二和劇場が行っている自主事業「おひろめらいぶ」を始め、二和劇場の運営全般を二和公民館と協働しながら活動を行っている。

【おひろめらいぶのプロデュース】

二和公民館では「二和劇場」というシリーズもので、市民に質の高い催し物を身近に楽しんでもらう事業を行ってきている。その二和劇場の中に「おひろめらいぶ」という企画がある。そこでは、デビュー直後の若手アーティストを積極的に取り上げ、まさに二和の舞台からお披露目してもらおうという企画である。当日の舞台裏はもとより、演出や曲目を含め、広報活動なども同館職員と一緒にコーディネートする活動を行っている。メンバーはこのライブを通じて必要なスキルの習得、研鑽にも努めているのである。※平成23年度より「二和劇場」と「おひろめらいぶ」は一本化し実施

【支援金事業】（支援対象経費総額 300,680 円 支援金確定額 150,000 円 支援率 49.89%）

今回の支援金事業は、市民にとって貴重な財産となっている二和公民館講堂の有機的な活用を図る一助として、新年の機会を捉えて公民館とともに心豊かなまちづくりと交流のため、市民を対象に「初笑いふたわ寄席」を開催するものである。明るいまちは“笑い”からをコンセプトに、二和劇場ボランティア実行委員会と二和公民館が協働して企画・運営を行うこととしている。このために必要な舞台・音響・照明の知識・操作は22年度予定の「おひろめらいぶ」（年4回）に参加して、講習を通じてスキルの向上に努めることにしている。

【ふたわ寄席に参加して】

支援金事業として1月15日に行われた新春恒例のふたわ寄席は、今回で4回目の催し物である。昨年12月15日の市広報に掲載された日から入場券が一人500円で当公民館にて販売されたが、二日目にはほぼ完売の盛況となる人気がある。当日は自由席ということもあって、少しでも良い席をとの思いもあって、開場予定時刻の30分前には公民館に入ったが、既に数十人が一列状態に並んで入場を待っており、会場時刻が近づくにつれホールは立錐の余地もない状態であった。13時30分の開場と同時に先頭から整然と講堂に誘導されたが、あっという間に講堂の椅子は埋め尽くされていた。

14時の開演はプロのアナウンサーによる軽快なご案内により始まった。正月に相応しい和服姿で当日の趣旨、出演者の紹介等のユーモア溢れる司会の中で、本日の事業は船橋市の助成金を頂いている事業である旨の披露がさりげなく盛り込まれており、関係者の気配りの一端が表れていたのが印象的であった。後日談ではあるが、同司会者は4年連続、しかも和服は自前のものを用意されていたとのことでした。

当日は落語を中心に縁起物の太神楽の出し物と盛り沢山であったが、あっという間の楽しい2時間だった。特に4代目「柳亭市馬」の得意ネタである「掛取美智也」はあの懐かしい三橋美智也のヒットメロディーのオンパレードであり、観客席は笑いと感動に溢れていた。まさに明るいまちづくりは“笑い”からのコンセプトに相応しいイベントであると実感できた。このような素晴らしい芸人を1年以上前から企画し、出演依頼を行い、当日の大盛會にまで結びつけたふたわ影丸と公民館スタッフのご尽力とご苦勞には敬服とともに大変な感銘を覚えた次第である。



会場は笑いに包まれました



噺家さんと実行委員会の皆さん

【期待される効果】

劇場公演の舞台裏方を市民によるボランティアとして支えることを通して、我が国が有する伝統・文化を継承し、風俗・慣習を学びながら次の世代に継承されていくことが、より身近なものになっていくことができよう。

市民活動の拠点としての公民館機能の充実強化が叫ばれている一方で、財源難による行政のスリム化が時代の要請として浮かび上がっている。その中であって、ふたわ影丸と公民館職員による協働事業の推進は、これからの市民活動の一つの方向性を示しているともいえる。日頃公民館を身近に感じていない地域市民に、まちづくりの拠点としての公民館の役割と存在意義に触れ、理解を得ていくことに相当な貢献を果たせていくものと高い期待が寄せられている。

【取材を終えて】

通常、公民館活動の集客率はよくて7～8割といわれる中で、二和公民館公演の集客率は9割を超える高い数値となっている。これもふたわ影丸の日頃の研鑽と市民に喜ばれる企画の賜物であろう。地域で地元の文化を支えるための裏方として、ふたわ影丸の存在価値は益々高まる一方であるが、メンバーそれぞれが楽しみながら力を発揮し、まちの元気につなげようとの熱い思いは、地域コミュニティの再生にも大いに役立つのではないかと期待を抱かせるのに十分なものがあつた。

関わり先（連絡担当者）
二和劇場ボランティア実行委員会
代表 岩瀬 伸之介
TEL：047-447-9116

中・高齢者の為のマナトモ大学で生涯学習をたのしもう

取材日：平成22年（2010年）11月14日

【活動目的】

中・高齢者に“共有の学びの場”を設け“共有の価値観・思考”を育みながら、生きがい、地域社会・街づくりの充実・貢献を図る。中・高齢者の強みに目を付け強みを見出し、強みを強くすることを目標とする。

【支援金事業】（支援対象経費総額 360,078 円 支援金確定額 180,039 円 支援率 50%）

2011年4月開校を目指してNPO社会生涯大学「船橋マナトモ（学友）大学」のプレ事業を行う。

終了した今年度の活動内容

- 1 6月25日に第一回プレ通常教室を男女共同参画センターで行なった。内容は健康づくり学科の整体教室で「自分のパワーポイントを活かす」として参加者は58名であった。
- 2 7月25日に第二回プレ通常教室を薬円台公民館にて行った。内容は前回と同じ「自分のパワーポイントを活かす」で、44名の参加者を得た。
- 3 8月29日に第三回プレ通常教室を薬円台公民館にて行った。内容は人生学科夏季シンポジウム「ラストステージをどう迎える！」で参加者73名を得る。
- 4 第四回プレ通常教室は9月26日に薬円台公民館にて開かれた内容は健康づくり学科整体教室の【誰でもできる自分・家族の整体教室】44名参加。2011年3月までに今後数回のプレ通常教室を開いて2011年4月の本開校に備える計画。

→2011年4月本開校を計画していましたが、体制の充実が不足し、しばらくの間、本開校を延期して、プレ事業を続けることになった。



第2回プレ通常教室



第3回プレ通常教室

【活動の現場から】

平成22年11月14日（日）薬円台公民館にて健康づくり学科整体教室が行われたので参加、及び取材した。題目は「健康と美容づくりの整体教室」として上記と同様、西川則雄理事長が講師を務めた。

参加は事務局を含めて14名で、初参加が3名、4回目が1名であった。東洋医学をすすめる内容で、ユーモアのある楽しい語り口で和気あいあいの教室でした。講義ばかりでは飽きるということで実技を沢山取り入れ工夫していた。半数ほどの参加者が実際にやってみて、満足した模様であった。腰痛に関しては、昔から知られたゴムなわを腰に巻いて腰回しをする方法をみなで実演し、両手振り体操は全員で楽しく実施した。



健康づくり学科整体教室

【西川理事長へのインタビュー】

- 1 学生集めには苦勞している。主にシニア・システム協議会催事参画者200名へのDMや、地域情報紙への投稿などで募集している。
- 2 来年4月の本開校へ向けて300名の目標が11月1日現在まだ40名。
- 3 大学のカリキュラムは明確になってはいないが、得意分野は高齢者の課題・整体術・無駄な延命治療と高齢期の生活・他企業との協働など。
- 4 組織的、計画的事業として展開するだけの資金力、人員力が足りない。手当てを払って実務担当者を集めることができない。

関わり先（連絡担当者） NPO法人 シニア・システム協議会 理事長 西川 則雄 Tel：047-469-3651

自転車運転マナー実践教室開催

取材日：平成22年（2010年）11月14日

【活動目的】

平成21年の自転車事故発生状況を全国的にみると、自転車が当事者となった交通事故は全事故の21.2%を占めています。その中で対歩行者事故は10年前の約3.7倍にもなっております。その原因として、自転車がいわば無秩序に歩道を通行するなど、ルールを守らない実態が目立っています。

当推進委員会は船橋市大穴地区全域で年間数回の自転車運転マナー教室を開催しています。

- ① 自転車事故、及び事故死の撲滅に向けて、自転車運転マナーの周知徹底を計る。

自転車は道路交通法上、「車両」の一種です。

「自転車安全利用五則」の理解を深める様努めています。

1. 自転車は、車道が原則、歩道は例外
2. 車道は左側通行
3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
4. 安全ルールを守る 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
夜間はライトを点灯
交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
5. 子供はヘルメットを着用

- ② 身近な自転車を通じて人命の尊さと人間同志の社会マナーを学びます。

- ③ 高齢化と少子化の社会に於いて子供と高齢者のコミュニケーションを計ります。



会長挨拶

【支援金事業】（支援対象経費総額 128,782円 支援金確定額 64,391円 支援率 50%）

実際の路上で自転車運転マナーを学ぶ

本年度の活動は年4回の自転車運転マナー教室（5月、7月、11月、3月（予定））を開催します。実際に路上で体験学習しますので、当日は事前に講習者を登録記帳し、保険を掛けてから実施いたします。開催関係者及びご協力団体は下記の皆さんです。

- 「自転車運転マナー推進委員会」指導員20名
- 大穴地区町会・自治会連合会
- ボランティア
- 船橋市、警察署、学校、PTA、町会自治会
- 大穴ボランティア会、防犯指導員、スクールガード

支援金の用途

- ①普及・案内チラシ ②役員会、実行委員会資料
③保険料 ④講習用出席カード ⑤講習済受講証
⑥自転車運転子供免許証 ⑦イベント講師料 ⑧その他機材



登録記帳

【支援金事業のもたらす効果・今後の活動】

この事業は平成21年10月、大穴地区を起点として発足し、地域の交通安全を目指している団体です。行政の支援はこの事業の継続には欠かせないものです。市民の人々に関心を持ってもらうことが大切になります。行政主体だけでは不十分で、人が集まりにくく、地域、町会の協力が是非必要です。

まだ発足から日も浅く、学校・町会・市に、当推進委員会の趣旨を理解していただく事が第一歩で、現在手探りで浸透を計っております。

他地区に対しても協力体制を充実し、要望があれば話しあい指導員を派遣しこの運動を広げていきたいと考えております。



出 発



路上講習：横断



下り坂：一時停止



受講証：授与

【取材を終えて】

実際に路上で自転車を走らせ講習する事によって、道端で地域の人々が“何をやっているのかな？”と関心を示していただき話し合っている姿が印象的でした。

関係者50名程の方が「さくら公園」で準備し、定刻に路上の25ポイントの目印に沿って、指導員のもと、35分程掛けて高齢者、父母の方と子供達(計39名参加)とが一緒に走る風景は微笑ましく、終了後の受講証を受けた参加者は充実感に包まれていたようです。この活動の継続を望みます。

関わり先（連絡担当者）
自転車運転マナー推進委員会
中込 正次
TEL：047-465-3820

塚田環境フェア2010と15周年事業

取材日：平成22年（2010年）9月5日

【活動目的】

市民・行政・企業のパートナーシップにより、塚田地区において健全で恵豊かな環境の実現を目指すために、「塚田環境フェア」を開催する。

＜塚田環境フェアの実施＞

環境パネル展、フリーマーケット、リサイクルリユース地産地消の模擬店、塚田地区不用品無料回収、ごみクイズ、ものづくりコーナー、ペットボトルキャップ回収、塚田地区バザー

＜資源循環型まちづくりモデル事業の実施＞

ペットボトルステーション回収実験、ペットボトルキャップ回収実験、譲ります譲ってくださいボード、不用品無料回収実験

【支援金事業】（支援対象経費総額 351,570 円 支援金確定額 175,785 円 支援率 50%）

環境や自然に関する多くの団体が参加し、市民と一緒に環境に関する情報を発信、楽しく遊びながら環境についての知識を深めることを目的に、15回目となる「塚田環境フェア2010」を開催する。

また、「塚田環境フェア」の15周年事業として、可燃ごみ中の紙類のリサイクル率を上げ、ごみ減量化のための具体的な方法を住民に提示するため、雑紙の分別方法を印刷した雑紙分別紙袋を各戸配布する。



雑紙分別紙袋



ペットボトルキャップの回収

【活動の現場から】

平成22年9月5日（日）に塚田公民館で開催された「塚田環境フェア2010」を取材した。

町会・自治会、小・中学校、大学、NPO、行政等、様々な主体が参加し、環境パネル展、漁師めしの試食、フリーマーケットやバザー、模擬店、子ども達も参加できるものづくりコーナーや、段ボールの迷路あそび等のゲームやクイズラリーも行われ、大人も子どもも楽しみながら環境について学べる催しで構成されていた。



環境パネル展



コサージュづくりを体験

【雑紙分別の紙袋配布の効果】

雑紙分別紙袋は、「塚田環境フェア2010」の来場者に500枚、大規模マンションに1,000枚、5つの町会・自治会に約1,500枚、合計3,000枚を配付した。

大規模マンションで有価物回収日に雑紙回収量のデータを集計したところ、6ヶ月間の雑紙分別量は約2.5トンにもなった。また、今回配付した雑紙分別紙袋がなくなっても、家庭にある紙袋で継続して分別が続くなど、雑紙分別紙袋の配布は一定の成果が得られた。

【取材を終えて】

長年にわたり創意工夫を積み上げた「塚田環境フェア」の内容は見事で、幅広い年代の参加者の多さには驚いた。特に、地元町会・自治会、小・中学校、大学、NPO、地区社会福祉協議会、クリーン推進課・環境保全課などの市役所等、多様な主体を糾合する組織力は強力である。

今後も「塚田環境フェア」が継続され、また新しい試みが追加されることを大いに期待したい。

関わり先（連絡担当者）
塚田環境フェア2010実行委員会
事務局 江口 晴美
TEL：047-460-0736

戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に伝える活動

取材日：平成22年（2010年）12月15日

【活動目的】

広島原爆投下直後の様子を被爆者が描いた2,225枚の絵画の内、毎年30枚ほど広島平和記念資料館から借りて、戦争の恐ろしさと平和への尊さを、次世代に伝えるための活動を行っている。

- ①原爆の絵展と東京大空襲写真展の開催
- ②平和に関する映画の上映
- ③絵展と同時に児童向け紙芝居の開催

【支援金事業内容】（支援対象経費総額 122,678円 支援金確定額 61,339円 支援率50%）

夏季集中開催に向けて、半年前から原爆の絵の確保と絵展・映画上映会場の確保に尽力し、多くの方が会場を訪れた。今年度の絵展と映画上映の開催結果は、次の通りである。

原爆の絵展

会 場	日 程	入 場 者 数
船橋市市役所1階ロビー	7月5日～8月9日	来庁者の1割
勤労市民センターギャラリー	7月31日～8月1日	120名
高根台公民館1階ロビー	7月31日～8月1日	131名
薬園台公民館展示室	8月8日～8月27日	未把握
三山市民センターギャラリー	8月28日～8月29日	72名

映画上映会「マヤの一生」

会 場	日 程	入 場 者 数
高根台公民館講堂	8月1日	60名
二和公民館講堂	8月5日	80名
薬園台公民館講堂	8月8日	30名
三山市民センター	8月29日	30名



二和公民館 原爆の絵展



高根台公民館 映画上映会

【事業に期待される効果】

戦後65年を経過し、国民の大半が戦争を知らない。戦争の悲惨さと平和の尊さを多くの市民に啓発し、親・子・孫へと次世代に引き継ぐ事は意義深いものである。船橋市の平和都市宣言の精神と連動して、平和で住みよい船橋をつくる一助として寄与することが出来る。

原爆の絵展を27年間継続してきた経験から、市民に徐々に浸透しつつあり、今回のチラシの増刷と戸別配布により、戦争と平和に関する認知度を大いに高めたと思われる。また、原爆の絵展の入場者数は、微増ではあるが前年度より上回った。

さらに、絵展の感想文も多数受けており、意識の高まりを感じ、大きな効果が発揮できたものと思われる。

* (感想文の事例)

- ・ただただ悲しいです。絶対にあってはならないことです。この事実を忘れてはいけないことを、原爆を知らない子どもたちにも伝えていくべきです。
- ・絵をみているだけで胸が苦しくなります。世界の人に訴えるには言葉のみでなく、絵などを観ていただいでいかに残酷なことなのかを知っていただいた方がいいと思います。
- ・母として、平成生まれの子どもたちに戻してはいけないこと、命は大切であることを話して育てていきます。

【今後の活動】

今後は、絵と映画以外に、原爆、戦争と平和に関する資料ならびに文献などを展示して、より深く理解を求めてもらうことが必要だと感じている。

また、若い世代に伝えていきたいと考え、宣伝に励んでいるが、なかなか若い世代に来てもらえないのが課題である。子ども連れの若いお母さんが見に来てくれるが、母親自身も戦争を体験していないので、原爆の絵を見てもわからないこともあるが、それらについて理解していただくために、積極的に働きかけをしていきたい。

また、上映映画の内容について子どもでも理解しやすく、興味をもてるように検討し、より関心を高めるべく、活動していきたい。

【取材を終えて】

本来、絵展会場、映画上映会場で直接取材すべきであったが、7～9月の夏休み期間に集中した企画のため、結果的に12月の事業報告の中での取材に留まったのが残念であった。会員スタッフの、戦争と平和へのひたむきなPR活動の力強さを感じた。

スタッフが小・中学校をはじめ会場周辺の民家をくまなく戸別にチラシを配布して、認知度を高めると同時に、来場者数を増やす努力には敬意を表したい。児童向け紙芝居も制作している。今後も多くの市民に、継続して戦争の悲惨さと平和への尊さを訴える活動を展開して欲しい。また、絵展・上映会場におけるボランティアの応援を期待したい。

関わり先 (連絡担当者)

原爆の絵展・平和のつどい実行委員会
事務局長 春田 実章

TEL: 047-449-2725

0・2歳児親子遊び事業「とんぐり会」「ジーバー会」

取材日：平成23年（2011年）2月3日

【活動目的】

地域で乳児を育てている若い母親のために、会員相互の親睦をはかりながら、親子のつながりを大切にした親子遊びの場を提供し、0歳児親子の遊び「とんぐり会」と、2歳児親子遊び「ジーバー会」を運営しています。

【支援金事業】（支援対象経費総額 736,606円 支援金確定額 368,303円 支援率 50%）

0歳児親子遊び「とんぐり会」は、船橋アリーナ和室で、各クラス毎週1時間、15組の親子と2名の保育士が、親子のふれあいを大切にした、おもちゃ遊び、わらべうた、ミニ文学、親子体操の遊びをしています。

2歳児親子遊び「ジーバー会」は、多目的室で、各クラス、毎週1時間15分、20組の親子と2名の保育士が、親子のふれあいを大切にした、0歳児と同じ遊びの他に遊具遊びをしています。

次年度に、幼稚園や保育園に行く子ども達が、少しずつ親から離れられるように、2歳児の1クラスが、後期から通常の遊び時間中に、20分間、子ども達だけで親から離れて遊びます。そして自分の名前をグループ名で呼ばれて言葉の概念を広げます。

【事業を行う理由】

船橋市には、不特定親子のグループ遊びの場所がたくさんあります。しかし、「かしの木会」は、週1回ずつ遊び重ねて、特定親子のグループ遊びでしかできない、30分のおもちゃ遊びを大切にしています。この遊びをする事で、0歳児は根気と遊びの共感が育ち、2歳児は自発性と共感が育ちます。



2歳児 おもちゃ遊び

【期待される効果】

0歳児「とんぐり会」で使う、手作りのわらべうたの教材がすばらしくて、子ども達にそれらを見せると、一瞬にして一人一人が教材を注視します。このような脳の働きは、これから以後の物を覚えるのに大いに役立ちます。2歳児「ジーバー会」では、0歳から積み重ねがある子の成長が特に著しく、興味を持ったことには、まだ短時間ではありますが、とことん集中できます。

【活動の現場から】

「ジューパー会」の始まりの時間が近づくと、子ども達がお母さんと一緒に元気にやって来ます。どの子もみんな嬉しそうで、期待に満ちた顔です。自分の好きなシールを選んでカードに貼った後は、それぞれ興味のあるおもちゃのもとに走ります。しばらく自由に遊んだ後は、グループに分かれて座り、わらべうた・手遊び・しぐさ遊びの時間です。会の名前の由来にもなっている、いないいないばあという意味の、「ジューパー」のかけ声のハンカチ遊びは、特に楽しそうでした。手作りのお人形やパネルを使ったお話の時間は、どの子もみな真剣に聞いています。

このあたりから、来年度の入園に向けて、お母さんと離れられる子は少しずつ離れます。全身を使うリズム体操が終わると、一人一人先生と抱擁のご挨拶をして会は終了になりました。

子ども達は、お友達とも仲良く遊べる、進んでお片付けができるなど、とてもしっかりしていて落ち着いているのが印象的でした。公民館などの不特定親子の遊びの場所とは別に、こうした積み重ねを大切にする遊びの場所があり、保護者がそれぞれの事情に応じて選ぶ事ができればと思いました。支援金を受けて、一回の会費が600円から300円に下がり、会員がとても増えたそうです。特に船橋市内の子どもが多い地域などにも広まれば、もっとたくさんの親子が喜ぶのではないかと感じました。



「しぐさ遊び」親子のスキンシップになり、
子供達の大好きな遊びです



「お話」子供達は手作りの物に興味を示し、
吸い込まれるように聞いています

関わり先（連絡担当者）

0・2歳児親子遊び「かしの木会」

代表 中村 三和子

TEL：047-466-3375

「坪井地区」(船橋美し学園)コミュニティ自立推進活動

取材日：平成23年(2011年)2月27日

【活動目的】

市内坪井地区において「船橋美し学園」という新しい街が誕生し、22年度で5周年を迎える。現在、入居戸数は約900戸で、今後倍以上が見込まれる。

新規住民が多く、相互に交流を行い、人間関係を深めてゆく必要がある。

船橋日大駅前に「NPO 美しい街住まい倶楽部」がコミュニティ形成に向けて「街づくり館」を建設し、この「街づくり館」を中心として運営協議会が民間の支援を受けつつコミュニティの自立意識向上を図ることを目的としている。

【支援金事業内容】 (支援対象経費総額 177,802円 支援金確定額 88,901円 支援率 50%)

美し学園自治会と連携し「街づくり館」を活用して、新規入居者への自治会加入と同時に5周年記念イベントの住民交流活動を開催する。

①美し学園自治会と連携し、新規住民の自治会加入促進・美しい街並みを守るための「街並み憲章」の同意を促進する。

②美し学園自治会設立5周年記念イベントの開催

③各クラブ活動による住民活動促進支援

既存住民と新規住民との交流の機会を深めるため、コミュニティ形成意識の向上を、クラブ活動やミニイベント等を実施する。

☆ガーデニング講習会 ☆七夕祭り ☆コーヒー講習会 ☆読み聞かせ・紙芝居会

☆ハロウィンパーティー ☆収穫祭 ☆クリスマスリースづくり ☆餅つきと豚汁会

☆コミュニティ大学講座(サイエンス・カフェ) ☆健康講座

☆収穫体験作業の実施(さといも9月～11月)

④地産地消の野菜直売会の実施

地区外近隣農家や既存住宅地と一体となったコミュニティ再生に向け、地産地消の野菜直売会を「街づくり館」を利用して定期的実施する。(毎週火・金曜日)



船橋日大駅前の「街づくり館」

【事業に期待される効果】

- ① 美し学園自治会の加入率向上及び街並み憲章の同意書による自治意識の向上になる。
- ② 自主的なクラブ活動の活性化により、子どもの見守り、高齢者の生きがい、健康維持、親子の触れ合い、子どもと高齢者との触れ合い、駅前広場や公園の美化活動（花の定植等）、街の清掃活動など地域の共助意識、コミュニティ意識の向上になる。
- ③ 野菜直売会やイベントを通じて地産地消活動及び新中旧住民のコミュニティが促進され、坪井地区が24番目のコミュニティ地区として自立できる。
- ④ 交流活動を通じて、街づくり館の果たす役割の住民への浸透で、街づくり館運営資金の財政確保方策の検討の進化が図られる。

【「坪井の気候」講演会の開催】 <平成23年2月27日(日) 10時～11時30分>

サイエンスカフェとして、新設の坪井公民館で行われ18名の参加があった。地元住民の日本気象予報士会の関隆則氏による講演は、身近な気象の変化をパワーポイントの活用と、軽妙な説明が具体的で分かりやすく、内容の濃い内容であった。

内容の概略は、アメダスの位置、衛星画像の見方について学び、建物の密度による温度の変化、雨の原因は南風と北西風の衝突であること、坪井地区・船橋の気象は風の流れて千葉より東京のデータを参考に近いことなど、坪井地区に関する気候の特徴についての講演などであった。講演者の自宅での温度測定値と都心の温度差は坪井地区が4～5度程度低いとのことであり、参加者も興味深く講演を聞いていた。



講演会

【取材を終えて】

坪井地区の「船橋美し学園」という新しい街は誕生してまもなく、入居個数は約900戸で、今後新規入居者が多数見込まれる。現在、人口は約3千人で、内小学生以下が約1千人と3割を占め高齢者は約120～130人と若い世帯が多い貴重な地区でもある。

街並みを歩くと、新しい住宅が並び病院、開業医も整って、道路も歩道も広く、左右には草花が綺麗に咲いている。広い公園には日曜日ということもあり、親子連れ特に幼児が元気に走り回っているのが印象的であった。ホテルを呼び戻そうと研究努力されている。また、コミュニティ大学講座については、今年度は日本大学の協力を得てプレ講座を開催したが、来年度以降さらに充実させ、働き盛りの男性など、地域との交流を図るのが難しいとされている人の参加も促進させていきたいとのことである。

船橋日大駅前にある「街づくり館」は、人的交流の場として十分に機能しており、運営協議会は多種多様なイベントを企画して、住民相互の交流に努力されている様子が伺われる。今後さらに新規住民が増加されるにつれ、たゆまない努力が期待される。

関わり先（連絡担当者）
船橋美し学園街づくり館運営協議会
代表 佐藤 俊一
TEL：047-496-7778

スポーツを通じた障害者の社会参加の推進！

(船橋障害者スポーツ・レクリエーション協会の設立)

取材日：平成22年（2010年）9月10日

【活動内容】

自遊時感工房は、会員が気軽に・気楽に・気長に・気持ちよく自遊時感（じゆうじかん）を楽集（がくしゅう）しながら、スローライフを創造しようをモットーに、平成6年12月に設立された団体である。会員は本年3月時点で95名を有しているが、工房では自遊時感（自ら遊び、時を感じて）しながら、やりたいことがあれば自分達で仲間を募り、運営することを基本に、市民生活の寄与と会員相互の研さん・親睦に様々な貢献を果たしてきている。

最近では障害者施設での健康スポーツ吹矢指導（毎月1回）、スルーネットピンポン等の障害者スポーツ体験教室の開催等障害者の生涯スポーツ振興に熱心に取り組むとともに、くらぶ図工の時感（月1回）、映画くらぶ（月1回）等様々な活動をしてきている。

【支援金事業】（支援対象経費総額 619,105 円 支援金確定額 495,284 円 支援率 80%）

2010年全国障害者スポーツ大会の千葉県開催を機に、船橋市の障害者スポーツ・レクリエーションの普及を

図るため、次の4事業を支援金事業として行うことにしている。
①障害者スポーツ現状調査のためのアンケートの実施、②障害者スポーツ体験教室の開催、③全国障害者スポーツ大会への協力、④船橋障害者スポーツ・レクリエーション協会（仮称）の設立である。

これらの事業を通じて、障害者にスポーツの楽しさを知ってもらい、地域との交流を進めるため、本年12月の障害者スポーツ協会の設立に向け、諸準備を進めている。

今回の事業は船橋市が今年度から導入した「市民公益活動公募型支援事業」で採択された20の提案型事業の中で、特に公益性が高い取り組みとして評価され、支援率が80%となったものである。



障害者スポーツ体験教室

【活動の現場から】

取材当日は、9月第2週の夜7時という時間帯であったが、会場となっていた中学校体育館では工房主催の健康スポーツ吹矢、スルーネットピンポンを始め、別のサークルによるインディアカ（羽根付きボールを使ったバレーボール形式のニュースポーツ）、ジャズダンスの活動が行われており、その熱気とパワーは今年の夏の残暑を吹き飛ばすかのような活動感にあふれていた。

健康スポーツ吹矢はアーチェリーやダーツのように円形の的をめがけ、6～10メートル離れた場所から矢を放つスポーツである。腹式呼吸と日常生活の胸式呼吸の二つを使い、腹筋を使って勢いよく吹く独特の呼吸法が特徴である。本市では市民大学の卒業生が同好会を作り、普及に努めているとのことであった。子どもからお年寄りまで同じルールで、障害者も健常者も一緒に気軽に楽しめ、かつ健康にも優れた生涯スポーツといえる。



健康スポーツ吹き矢

スルーネットピンポンは通常の卓球とは異なり、ネットの下をスルーさせて行うものであり、球の中に入っている小さな鈴の音を聞き分け、瞬時にコースを判断し、相手側に打ち返すスポーツである。

どちらも指導員とスポーツボランティアが指導・協力しながら行うものであるが、障害者と健常者を区別することなく、スポーツを通して同じ空間、時間を共有しながら、健康的な汗を楽しんでいた姿に大変な感銘を受けた。

会場の体育館入り口には段差があり、障害者には使い勝手がよいものではなかったが、入退室に際しては誰とはなく気軽に車いすをサポートしていたのも印象的であった。改めて、公民館・学校等の公共施設のバリアフリー化の必要性も認識されたところである。



スルーネットピンポン

【支援金事業のもたらす効果】

障害者と健常者を区別せずに、同じ場所、時間を共有し、同じ種目を一緒にすることで両者の相互理解が深まるとともに、これまでの障害者のスポーツに対する考え方が大きく変わっていくことが期待されている。この事業を通じて障害者がもっと地域に参画していけるような社会への転換につながることを望まれている。

提案型事業の中で今回大きな評価を受けたことに対しては、工房にとっても大変名誉なことであり、障害者スポーツをPRする絶好のチャンスと捉え、協会設立に向け、協力団体や参加者を増やしたいと喜びを表していた。

反面、大きな助成がついたことで、場所の確保、用具の手配、運営体制の整備等について、今まで以上に慎重なやり方にシフトせざるを得なくなったと率直な憂いも吐露されていた。

【取材を終えて】

熱心な活動の原点について、次のようなコメントが寄せられている。楽しいことを企画、実施する。参加者が少なくともガッカリしない。3人以上いれば次につながるとして継続実施する。「去る者は追わず、来る者は拒まず」を原則、徹底する。何でも興味を持ってチャレンジしようというのが、工房の活動テーマとのことだった。

この工房の掲げるテーマの追求・実践は、市民活動だけでなく、すべての社会活動の原点を示唆しているような気がする。楽しいことがないと長続きせず、愉しめない。楽しみを求めながら活動を継続させていく重要性を考えさせられたのである。

関わり先（連絡担当者）
自遊時感工房
事務局長 高橋 久吉
TEL：090-4226-9623

環境保全現況調査及び広報活動

取材日：平成23年（2011年）3月13日

【活動目的】

本団体は1972年（昭和47年）に創立して以来、海老川流域で活動を展開し、「海老川流域水循環再生協議会」策定後は、その枠組み内で市民と共にその施策を実行してきました。今回支援金を通じて新たな事業を市民の参加を拡大させながら持続的に、展開して行くことを目指します。

（補足1）海老川流域とは、海老川に集まる雨が降る範囲です。

（補足2）海老川流域水循環再生協議会は、平成8年3月、「望ましい河川・流域の在り方を水循環の視点で模索するとともに、行政や市民の意向を反映させた河川・流域整備の基本方針を検討する」事を目的に、行政、民間団体、都市公団で組織され、平成10年3月に「海老川流域水循環再生構想」を策定し、更に平成11年度には「海老川流域水循環再生行動計画」も作成しています。

【支援金事業内容】（事業予算額 1,465,333円 支援額 732,667円 支援率 50%）

船橋市固有の資源である「海老川」を昔のようなゆとりある河川環境に戻すため、市民の意識の醸成を図り名から現況調査を行い、将来にわたって親しまれている海老川の環境づくりを目指すものとして、海老川の環境資源を知り継承していくための現地調査を市民の参画機会を得て定期的にそれぞれの目的に応じた調査隊を編成して行う。

啓発活動は、市民参加による環境観察ウォーキング、広報紙、冊子の配布し、必要に応じて啓発学習会、地域懇談会等を行う。

具体的な事業内容は以下のとおりです。

1. 海老川隔週調査：第2、第4の水曜日
2. 月例調査：市民協働の海老川パトロールの実施（川辺ゴミ拾いを兼ね湧き水の調査など）毎月第4水曜日
3. 季節調査：春夏秋冬に訪れる野鳥、さくら開花宣言と補植など自然を観察（7月、10月、2月の第4水曜日）
4. 地域状況把握（浸水予測地域）：懇談会、講習会、視察（6月、10月）
5. 地球温暖化対策：広報活動冊子（6月、3月）
6. 市民と共に：手作りのまつり/親水市民まつり（環境月間にあわせ毎年6月第1日曜日）
自然に向かって歩こう市民1万歩福像めぐり（毎年10月第1日曜日）
7. まとめ啓発：啓発広報冊子の作成、広報紙年二回（4月、9月）、中間報告（9月）、最終年次報告書（3月）

【支援金事業のもたらす効果】

今回申請する事業活動によって県が主催の流域懇談会で市民の役割として期待されている家庭の雑排水の負荷の軽減、河川汚濁のなどにつながり、定期的調査パトロールは生態系回復保全に、市民との協働は市民の意識啓発拡大にもなり好状況が期待できる。その結果、行動計画も実証され海老川の良好な水循環系を次世代に引き継ぐことが出来る。



震災直後にもかかわらず十数名が参加



検査キットで海老川の汚濁状況を調査

【取材を終えて】

取材は、東日本大震災（3. 11）の翌々日、海老川の桜橋付近で行ないました。震災直後にもかかわらず多くの会員が集合されていました。当日は、公開講座も開かれましたが、地震直後にもかかわらず、十数名の方々の参加があり、会員の説明に耳を傾けられていました。こうした催しは、市の広報紙への掲載、会員のイベントのポスティングなどによって関心を引き起こす努力の賜物と感じられました。また会場では、海老川の河川水を採取し、その汚濁状況について検査キットを使って解りやすく来訪者及び散歩者に説明され、多くの方が関心を示されていました。この団体の活動は、40年にも及ぶ歴史があり、海老川親水市民祭りの発会時に「海老川造像祭り」を開催し、岡本太郎氏を審査委員長とするイベントを開催された実績もあるとのことでした。

かつては海老川も時々洪水が発生しており、昭和61年8月（台風10号）の洪水では船橋市街地で2,000戸を超える浸水被害が発生しておりました。環境を考える市民の会は海老川の氾濫に対する国の予算を獲得するために陳情活動を行い、降雨量38ミリメートルまでの対策がとられたとのことでした。

また、「吉野山を船橋に」のスローガンのもと植樹され、3,000本の植樹を達成。その桜の木も大きくなって毎年美しい花を咲き誇っています。河津桜の木が数本あるが、会の方が河津町と折衝され、やっとのことで苗木を譲り受けることができたこと、嬉しそうに話されておりました。

取材中や頂いた資料から多くのことを教えられました。河川の種類（区分）として「準用河川」（一級河川、二級河川以外の河川で市町村が指定したもの。二級河川に関する規定が準用される。）、普通河川（一級河川、二級河川、準用河川のいずれにも指定されていない公共の水流（川）と水面（沼、池）など、河川法は適用されない。）を知り、河川の管理内容を新たな視点から見られると思いました。

関わり先（連絡担当者） NPO法人 環境を考える市民の会 事務局 菊地 けい子 TEL：047-465-7790

囲碁の普及と囲碁交流による健全な児童、健全な家庭、
心身健康な高齢者、潤いのある地域社会作り事業

取材日：平成22年（2010年）12月8日

【活動目的】

健全な児童、健全な家庭、元気な高齢者が健全な地域社会を作り上げると確信し幼稚園、小・中学校、公民館等との協働の下、各種イベントを通じ、事業を推進している。

日本の伝統文化である「囲碁」は思考力・集中力・コミュニケーション能力が培われる知的ゲームであり、子供の間でひそかなブームとなっている。また、礼に始まり礼に終わる対局マナーは総合的な人間力を養い、躰教育に悩む親の手助けにもなる。当会は囲碁指導を通じ、教育現場の要望に応じて子供の知的・情操教育に尽力すると共に、囲碁教室に父母の参加を呼び掛け、親子対戦や共同の勉強会を通じて楽しみながら家庭での対話の機会を増やし、健全な家庭づくりの手助けをする。

また、健全で潤いのある地域社会づくりに貢献するため、公民館や幼稚園等のイベントや行事に参加し、親子囲碁大会・子供囲碁大会等を開催して子ども同士、親子、祖父母、ご近所をはじめ、地域の仲間を巻き込んだ交流の場づくりを行っている。

会のメンバー35名はリタイヤ組を中心に高齢者が多いが、囲碁好きに加え、子供好きである。子供やその家族との交流により元気をもらい、いきがいともなっている。

【支援金事業内容】（支援対象経費総額 382,317円 支援金確定額 191,159円 支援率 50%）

年間を通じて幼稚園、小・中学校、児童ホーム、公民館等で子供囲碁教室を開催し、児童の健全育成を図っている。教室数は36箇所、対象児童数は年間1000人を超す。

この子供囲碁教室には両親、祖父母が子供と一緒に参加することも多く、親子対戦や親子一緒に囲碁ゲームを勉強することにより、楽しみながら、親子、祖父母、家族間のコミュニケーション促進を図っている。また宿題を与える等、家庭での勉強会、親子対戦、対話促進を図っている。

また船橋市や幼稚園、公民館が主催する各種行事(親子囲碁教室、敬老の日囲碁大会、文化祭等)には積極的に参加し囲碁PRを行うと共に、地域との交流につとめている。

さらには、児童向けテキストや講師用の指導手引書の作成、各種教材開発等も行い、囲碁指導環境の整備も行っている。



幼稚園での囲碁教室

【支援金事業のもたらす効果】

今回提案する事業により、子供たちは伝統文化である「囲碁」の面白さ、知的刺激を楽しむとともに、今の子供に欠落しがちな躰、マナー、思いやり等総合的な人間力が自然に養われるばかりでなく、学力向上にも繋がっている。

また、日本の伝統文化でもある「囲碁」を学ぶことを通して日本人としての誇りが育まれる。

さらには家庭や地域社会での囲碁を通じた対話や交流促進、高齢者のいきがづくりを通じて健全な家庭、健全な地域社会づくりが期待される。

【取材を終えて】

飯山満町にある「しんめい幼稚園」の子供囲碁教室取材しました。園長さんによると園児教育として日本文化の継承、特に礼や人を思いやる心を高めることが重要な課題と考えていたところ囲碁文化継承の会の代表者とお会いする機会があり、同じ思いに共感して、子供囲碁教室を開かれたとのことでした。

教室では囲碁の先生に多くの園児が歓迎してくれました。囲碁の内容は園児向けに遊びの心を取り入れるなど工夫され、真剣でしかも楽しそうでした。囲碁の独特な用語の「うってがえし」や「こう」などのルールも簡明に分かりやすく話されて、園児の興味を引きつけていた。

手短かに囲碁のルールを解説したあとは保育さんも参加し、園児同士で本当に楽しそうに囲碁対戦をしていました。

その間、講師の先生方は園児の間を回って歩き、質問に答えたりしています。

尚、紙製の9路碁盤と紙製の碁石を使っていました。これは紙の碁盤と碁石を自宅に持ち帰って、家族で楽しめるようにとの配慮でもあるそうです。

「囲碁文化継承の会」の代表者とのインタビューにおいて、大学でも囲碁を学問と認め、単位取得の対象としているとのことであった。小・中・高などでは、囲碁の普及は簡単なことではないと思うのですが、会の皆さんの努力により確実に囲碁教室が受け入れられていることを感じました。

以前に比べ、先生方に、囲碁愛好者が少なくなっていることや先生方が忙しくなっているため、学校現場でのクラブ活動の立ち上げが苦戦しているとも話していた。



真剣な表情で取り組む園児たち

関わり先（連絡担当者）
NPO法人 囲碁文化継承の会
事務局 楠本 和弘
TEL：047-475-3176

租税納付及び広報活動関連事業（税は思いやり）

取材日：平成23年（2011年）2月2日

【活動内容】

船橋納税貯蓄組合連合会（以下、納連）は ①納税貯蓄組合の指導、育成 ②納税道義の高揚を図り、納期内納付の推進 ③中学生の「税についての作文、ポスター」等の募集活動を通じて一般市民の税に対する啓蒙を図ることなどを目的とし、昭和27年に設立され、58年の歴史がある。

全国では約259万人（5万4千組合 平成21年3月末現在）、船橋市では約5、300人（90組合 平成22年3月末現在）が活動中である。この歴史の中で社会情勢も大きく変化し、昨今では高齢化が進み、医療、子育て、弱者救済の必要性が叫ばれている。このような現状の中、活動内容は、将来の希望ある国づくりの心を育てるため、①中学生の「税についての作文、ポスター」の募集、表彰に力を入れ ②税の研修実施 ③街頭キャンペーンの実施 ④市民まつりのイベントに参加し納税の啓発に努めている。

【支援金事業】（支援対象経費総額 171,820円 支援金確定額 85,910円 支援率 50%）

事業の内容は、①中学生の「税についての作文、ポスター」募集、表彰、作文集発行（22年6月～22年12月）、②税の研修の実施（22年11月、23年1月）、③納期内納付推進等の街頭キャンペーン（23年2月）、④市民まつり等のイベントに参加し納税思想の啓発を図る（22年7月）、⑤納税貯蓄組合へ税の納期内納付協力依頼である。

これらの事業を通じて、中学生の税に関する知識の向上、納税者の意識の向上、納付率のアップを継続的に図り、高齢化社会、社会的弱者の救済に役立てていくものである。

【活動の現場から】

2月2日（水）午後2時からJR船橋駅北口、南口で行われた街頭キャンペーンを取材した。この街頭キャンペーンは20年以上続けられている。納連の役員を中心に20人がボランティアで参加して確定申告早期提出推進の協力をお願いしつつ、2,000枚のチラシが配布された。チラシを受け取った市民の中には賛同者も多く、事業の目的を評価する声も聞かれ、労いの言葉もかけられていたのが印象に残った。



街頭キャンペーン

【支援金事業のもたらす効果】

税は思いやりを合言葉に事業を展開しており、次代を担う中学生を対象に租税教育推進活動の一環として、中学生の作文、ポスターの募集活動を重要目標と位置づけている。22年度は、27中学校より作文2,912編、ポスター90点の応募があり、そのうち1編が東京国税局長賞を受賞した。

「税についての作文、ポスター」募集活動も既に43回を数え、応募した人の多くは良き納税者となっていることと信じ、将来も納期内納付が上昇していくと期待している。

加えて、子供たちの将来に向けて、税のありがたさの理解、親子で税の話をするなど正しい税の理解者、協力者の拡大を狙っている。

このような税の研修、啓蒙、キャンペーンを毎年継続実施していくことにより、一般市民が税は国、県、市の動脈であることを理解していくものと考えている。



税についてのポスター

【取材を終えて】

税は思いやりの気持ちを育てて行きたいという丸子会長の言葉は市民としても大切なことであると感じた。

また、「納税という行為は、日本中を笑顔にするために私たちができる一番身近で、最も重要なことだと私は考えます。会ったことのない、まして話したこともない多くの人の力が、私の暮らしや心を支えてくれている。」という中学生の税についての作文には感動した。

関わり先（連絡担当者） 船橋納税貯蓄組合連合会 会長 丸子 貞良 TEL：047-431-1000
--

街づくりは街歩きマイスターの育成から！！

船橋市における街案内ボランティア組織および人材育成事業

取材日：平成23年（2011年）2月6日（日）

【活動目的】

ふなばし街歩きネットワークは、「掘り起こし散歩・味わい街歩き」、「街歩きから街おこしへ」、「みんなで街案内人になろう」の3つのコンセプトに基づき、諸活動を行っている。街おこしに向けて、①多彩・多様な街歩きを、地域の関連団体と提携して実施し、②街歩きで発見した地域の魅力や資源を、「街おこし」につなげ、③船橋市街案内ボランティア組織および人材の育成をめざしている。

船橋市観光協会の中には3つの委員会（組織・広報・事業）が設置されているが、この「ふなばし街歩きネットワーク」団体は「街歩き観光事業の開発・発展」を目的に、事業委員会の中に平成21年10月に独立した団体として創られたものである。

【活動状況】

団体はこれまで街歩きとして、昨年は「2月・本町/湊町めぐり」「5月宮本めぐり」「11月・海神めぐり」を実施するとともに、8月には街歩き参加者の懇談会も行い100名以上の参加者を数えている。また、観光コース開発活動として「海老川遊船」「三番瀬渡し舟」「元南極観測船しらせ」などを体験学習し、魅力的な体験型都市ツアー開発の展望を得ている。

【支援金事業の内容】（支援対象経費総額 406,876 円 支援金確定額 203,438 円 支援率 50%）

今回の支援金事業は、船橋市における街案内ボランティア組織および人材育成事業である。市民はもとより、船橋市を訪れる国内外の方々に対し、正確で良質な都市観光情報・地域情報を提供し、街歩き会や観光案内活動を行いながら、案内対象者と地元生産者・販売者との交流を強化して地元製品の利活用促進を図る「街歩きボランティア（ふるさと案内マイスター）」の組織と人材の育成を行うものである。22年度はそのための準備として、ボランティア育成のためのプログラム策定、研修テキストとツールの作成を行うとともに、案内先（街歩き、観光コース）の整備と新規開発に力を入れている。

このための事業費として、講師・社寺への報償費、研修冊子や資料の印刷・製本費、研修用携帯ビデオ製作費その他、新観光コースの整備開発費などで合計800,000円を予定しており、これに対する本市からの支援率は50%となっている。

【活動の現場から】

2月6日（日）、22年度の有終を飾る「鎌倉時代の歴史・文化と地元商店街を訪ねて」をテーマにした街歩きに参加した。コースはJR下総中山駅から商店街を散策し、法華経寺周辺をめぐるものである。

法華経寺は鎌倉時代の日蓮上人にゆかりのある寺であるが、平成の大改修の行われた祖師堂内部の説明（法華経寺の歴史と街おこし）と講話を田中見定上人に、黒門、赤門、法華経寺境内、商店街や周辺は「市川案内人の会」のボランティアの方に案内していただいた。



街歩きに参加

2月10日に大荒行の成満会を迎える修行僧達の読経の声が聞こえてくる境内で、約30名の参加者は熱心にメモをとりながら説明に聴き入っていました。普段は入れない祖師堂の中の様子や、上人からの貴重な講話、故事来歴から文化、芸術等を詳しく勉強されている案内人の説明を聴く機会が得られ、2月の寒さも忘れるほど貴重な勉強を体験できました。



本院貴賓室にて田中上人より
「中山街おこし」の経験談を拝聴

【事業に期待される効果】

街案内ボランティアが行う良質な地域情報を提供する街歩き会や街案内活動によって、案内を受けた市民の中に本市の歴史・文化・産業・自然・環境など各分野の魅力を新発見・再開発する体験が積み重ねられることになり、市民が「郷土認識と協働意識を高める効果」が期待されている。

歴史はもちろんのこと、地域の文化、自然、産業をしっかりと見つけ、その中から「お宝」を発見し、市民だけでなく多くの来訪者を招きよせる魅力ある体験型都市観光事業の実現を期待できるとともに、ふなばし市民大学卒業者を含む中高年者の地域での活動を支える「受け皿活動」としても重要な役割を担っていくものと期待されている。

【取材を終えて】

市民、行政、商工農漁業関係者すべてにとって、観光事業の活発化に期待するところは益々高くなっています。その中であって、「ふなばし街歩きネットワーク」は先ずは市民が街を知る・街を知るために街を歩く・街を肌で感じたもの同士が手をつなぐことから始めようとしていることに深い感動と共感を覚えた。体験型街歩き型都市ツアーには、①優秀な案内ボランティアがいること、②素晴らしいコースがあること、③そのコースの中にあるメニューが優れていることの三つが揃うことが必要であると強調されていたのが大変印象に残っている。23年度から始まる「ふるさと案内マイスター」の組織と人材の育成を行う準備は着々と進んでいったが、研修のための会場探しとカリキュラム作り、講師発掘には相当の労力を要したとのことでした。

めざす目標は高く、短期間で到達することは困難が伴うでしょうが、継続的な地道な活動が他市に真似のできない「観光都市船橋市」を将来に向けて作り上げていくのではないかと感じました。他の市民団体とも提携しながら、これからの市民活動の見本となる活躍を期待しています。

関わり先（連絡担当者船橋市観光協会）
ふなばし街歩きネットワーク
事務局長 人見 邦良
Tel：047-422-0596

船橋港を中心とする水上交通「FunabaSea Bus」の実現に向けて

取材日；平成22年（2010年）11月20日

【活動目的】

NPO法人ベイプラン・アソシエイツ（BPA）は、東京湾の有するかけがえのない自然と天然資源を多くの人々に周知してもらうため、産業の進展によって疲弊した湾の状況を改善し、次の世代に引き継ぐ活動を目的に平成11年7月に設立された団体である。この間、三番瀬の清掃活動、船橋漁港周辺の美化運動、東京湾のサンセットクルージング等様々な活動を行ってきている。

【支援金事業】（支援対象経費総額 887,135 円 支援確定額 443,568 円 支援率 50%）

今回の支援金事業は、船橋市街地の慢性的な交通渋滞が今後ともますます状況が厳しくなることが予測されていることから、海老川の南北軸を活かして、内陸部（海老川橋付近）と港湾部を結ぶ Sea Bus の渡船事業によって、渋滞解消の解決を図るとともにCO2排出の抑制を目指す、新たな水上バスの運航を行うものである。

この事業の実現によって、新たな観光・レジャースポットの発掘、進展の可能性を模索し、環境に優しい船橋の魅力的なまちづくりのきっかけづくりに積極的に寄与したいとしている。加えて、市民の船橋の川と海に関する水上からの学習や、環境保全に向けた市民意識の高揚、船橋に相応しい都市観光の創出にも資するものを目指しているものである。

【アクセス渡船の実証実験に試乗】

船橋港の水辺を結ぶ新海上交通システムの実証実験は、平成22年7月より12月まで原則月2日、土・日曜日を利用した運航を重ねてきている。3トン弱の海苔漁船を改造した1トン程度の船を活用し、定員11名でアクセス渡船を行っている。

実験運航コースは、京成線「大神宮下」駅直近の八千代橋の袂から出航し、船橋漁港～ららぽーと前～貝殻島（通称）～三番瀬付近を折り返し、高瀬港内に係留中の元南極観測船「しらせ」を海側から眺めた後、出発点の八千代橋まで戻る約4kmとなっている。

試乗当日は天気も良く、風もない絶好のクルージング日和であり、船長の解説を聞きながらの約45分間の船旅はあっという間に過ぎてしまった感がある。船から見る船橋港、海上から眺める「しらせ」の船姿は圧巻であった。その中でも一際印象的だったのは、貝殻等への上陸であった。同島はアサリ等の貝殻の死骸が自然と堆積したものであるが、面積はあの沖ノ鳥島を凌ぐものがあり、三番瀬の近くにそのような島があることさえ知らなかった者にとっては、ただただ自然の摂理の大きさに愕然とするとともに、貴重な自然をもう少しPRしてもよいのではという気持ちを抱かせたのである。



巡航速度は一番速いところで毎時15ノット(約27km)程度出ているとのことであったが、定員一杯の乗船にも関わらず、海の穏やかもあって非常に安定した走行であった。

代表の大野理事長は、課題は多々あるが「ららぽーと」と「その対岸」を結ぶ渡船事業も併せて実現できれば、今回実験を重ねている海老川を活かした南北軸の新交通サービスとともに市民の利便性は遙かに向上するはずだと熱く語っておられた。ただ、そのためには乗船・下船が出来る棧橋が必須となるが、設置費用等が相当掛かり自助努力だけでは困難とのことであった。「海からアプローチする船橋の観光資源開発に大いなる関心を持っているが、建物など海辺の施設が海に対して背を向けているのは残念である!」との一言が、海辺のまちづくりの難しさを象徴しているようで、とても印象に残ったものがある。

本事業には日大理工学部海洋建築工学科の学生たちに協力・助言を得ながら、必要となる棧橋の設置を目指しているが、試乗当日も現地でVTR撮影やアンケート実施などを行っていた。



元南極観測船しらせを見て

【事業に期待される効果】

海老川の南北軸を活かした水上バスを運航することで、市内の深刻な交通渋滞の緩和とCO2排出の抑制を図るとともに、船橋に係留されている元南極観測船「しらせ」や他団体のイベントなどと合わせて、近隣都市には見られない観光・レジャー面や水辺の癒しスポット整備など、船橋の魅力づくりや自然環境学習の場の創出効果が期待されている。

平成23年1月～2月頃までにこれまでの実証実験・イベント運航事業のアンケート、成果等の検証を行って、次年度以降の事業などの具体策を検討していく予定である。

【取材を終えて】

実証運航船に乗り、八千代橋からの所定のコースを体験させてもらったが、船橋港は陸上からの普段の眺めとは異なり、すごく大きく感じられ、船橋南部のまさに入口というか玄関のような佇まいであった。また三番瀬の海底(水深1.5m)が本当に透きとおって見えた感激は、大変印象的であった。試乗を通じて、ふるさと船橋の水辺の貴重な資源や自然環境保護の大切さを再認識するとともに、船橋発のブランディングとしての船橋港の役割の大きさを改めて実感した次第である。

本事業が本格的に展開するまでには未だまだ高いハードルが山積しているが、関係者の皆さんの熱い想いには感動を覚えた。

関わり先(連絡担当者) NPO法人ベイプラン・アソシエイツ 事務局 宜野座 真子(ぎのぞ ちかこ) TEL: 047-431-5830
--

市民・来街者も求める船橋市のアンケート調査事業

取材日：平成23年（2011年）3月11日

【活動目的】

現在の社会情勢では、サブプライムローンに始まった世界経済の変動は企業悪化・消費者へと影響があります。雇用問題・治安悪化・少子高齢化・ゴミ捨てや違法駐輪などモラルの悪化。

このような問題は国内各地域で発生しており船橋市も例外ではありません。

商工会議所青年部は、地域の経済的発展の支えとなり、新しい文化的創造をもって豊かで住みよい郷土づくりに貢献することを目的とした経営団体であります。

地域住民やイベント参加者、船橋市内に勤める方等船橋市に関係する方々が求める声を聞きます。聞いた声をアンケート結果として、自治会、商店会等の地域団体をはじめ、行政・会議所が行うまちづくりの関係団体へ参加し、活動する中で発信していくことが、(我々)青年部の活動目的であると考え本事業を企画いたしました。

【支援金事業内容】（支援対象経費総額 300,463円 支援金確定額 150,000円 支援率 49.92%）

船橋市のイベント参加者、地域住民、船橋市内で勤める社会人の方を対象に、それぞれが関わる「船橋市（地域）」をテーマとしたアンケートを実施。アンケートの選定・集計・分析結果を発信いたします。

アンケートについて（何れもイベント・地域活動に参加）

①イベント参加者を対象としたアンケート

主なテーマ：参加者・市民が求めるイベント、交通体系（違法駐輪や安全な交通体系）

②地域活動者（町会・自治会・商店会等）

内容：ゴミ拾い等清掃活動や昼・夜間に行われるパトロール等

主なテーマ：きれいなまちづくり、安心・安全なまちづくりについて

③船橋市内で働く方（当青年部会員事業所の従業員）

主なテーマ：通勤者から見た「船橋市」、職場環境改善について求める事

発表会並びに発信について

（発表会）アンケート集計結果を基に専門家と共に分析。結果を発表会形式にて発信いたします。

（発信）アンケート対象者（地域住民・自治会・商店会等）、船橋市や商工会議所、関係団体への参加を通じて結果や事業活動について積極的な発信を致します。

今後について

今後における当青年部活動の一つの基軸にいたします。

【支援金事業のもたらす効果】

○各地域住民・関係諸団体への参加・連携強化

本事業を通じ、アンケート時における地域住民や自治会・商店会等との連携が強化されます。また、アンケート結果を発信・結果を踏まえた地域活動等の提案が期待できます。

○船橋市・関係諸団体への発信

船橋市をはじめ、商工会議所や関係種団体へアンケート結果を発信することにより今後のまちづくりへのヒントとなりえること。

○積極的な協働事業へ向けた青年部会員のモチベーション向上

本事業を通じ、協働事業への意識向上と今後の青年部活動へのひとつの活動基盤として新たな公益的事業の企画・実施に期待が出来ます。



打合せ



アンケート配布（イベント時）

【取材を終えて】

取材は、東日本大震災の発生日の午前中に市役所市民協働課で行いました。商工会議所青年部からは会長及び2名の事務局の方がお出でになり、アンケート結果に基づく報告書（案）をベースに取材しました。イベント参加者のアンケートは、三咲夏祭り、ふなばし市民まつり、津田沼ふれあい夏祭り、市民祭り二田向会場など9会場で実施されていました。また、地域活動者のアンケートは、清掃活動・防犯パトロール者などに、更に船橋商工会議所青年部の会員の会社に勤務される方のアンケートが実施された。個々のアンケート結果は、関係者に配布されるのですが、アンケート調査を実施して「船橋商工会議所」の知名度の低さを痛感したと、おっしゃったのが印象的でした。商工会議所は、「商工会議所法」に基づく特別認可法人で、関係者以外には知られていないのもやむを得ないかもしれません。

アンケート結果は、船橋商工会議所青年部で組織している経営委員会、渉外委員会、対外委員会等で論議して地域経済社会の振興・発展や、社会福祉のための事業に役立てていきたいと抱負を述べられていました。

関わり先（連絡担当者） 船橋商工会議所青年部 事務局 小石 雄一郎 TEL：047-435-8211

伝統文化 子供たちの生け花教室

取材日：平成22年（2010年）11月4日

【団体の活動内容】

湖紫菫（こしほう）花のサークルは家庭とまちの暮らしに花で彩りを添えるよう、代表者 内山敦子氏（草月流師範 内山湖紫菫）が主宰する華道団体である。（団体設立：平成10年6月 会員数：40名）かねてから子どもの情操教育にいけ花の必要性を感じていたため、文化庁が募集していた「伝統文化こども教室」事業（日本の伝統文化をこどもが体験・習得する場）を平成17年度に委嘱を受け、行田中学校に生け花教室を開設した。船橋市が行うイベントにも参加し、「花フェスタ in ふなばし」では市長より感謝状を授与されている。

【支援金事業の内容】（支援対象経費総額 99,888 円 支援確定額 49,944 円 支援率 50%）

事業の費用は、教材用具費（教科書、参考書、花器）、印刷・製本費、大会発表費などに使用される予定となっている。

活動は行田中学校校長のご理解のもとに部活動と同様に扱われ、内山代表が講師になり本格的な生け花教室として生徒約11名を指導している。教室は放課後と夏休みを利用して約10回開催され、その間学校の文化祭や公民館のイベントにもその成果が披露される。2年間単位で継続され、最後にいけ花の免許が授与される。生徒の会費は無料。

花を生けることで子ども達の心が明るくなり、環境への関心も高まることから、市教育委員会を通して他の学校にもこの事業が展開されることを期待している。

【活動の現場から】

取材した当日（11月4日）は、ちょうど行田中学校の文化祭の前日で、会場（体育館）の舞台花の飾り付けを女子生徒4人が内山講師の指導のもとにさまざまな花を飾り付けていた。

黄色い百合、赤のダリア、ひまわり、小菊、フォックスフェイス（きつねの顔）、八つ手などを広い舞台に映えるよう、客席に向かって大きく広げ、それを茶色に染めた和紙で下から支え「秋の色」を見せている。内山講師は花全体を大きくふくらみを見せるよう、バランスをとるよう生徒に声をかけ、生徒も自分で納得いくよう一つ一つの花に丹念に手をかけていた。

舞台上で花を生けた後、内山講師と石川校長を交えて次の様にお話をうかがった。

- ・生徒は進学や部活などの問題があるものの、みな熱心に取り組んでいる。
- ・事業の支援金は有り難い。内山講師が殆どボランティアとして務めている。
- ・今後、小学生や地域の方に参加していただくには、会場の場所の確保が問題となる。



花を生ける生徒さんと内山講師

【事業に期待される効果】

これまで5年間実施された事業を引き続き継続するため、この支援金を有効に活用されるよう望まれる。そしてこの活動は生け花教室の実施にとどまらず、学校の教育力と地域の力を結び付けるモデルの一つと期待される所から一層の事業推進が望まれる。そのため学校側の一層の協力、会費の有償化や華道団体の千葉県支部との連携など幅のある活動を進めることが必要と思われ、また事業結果の評価を受け（例：生徒、保護者からのアンケート）、その成果を外部に大いに発信する必要もあるのではないかと考えられる。

【取材を終えて】

通常の定例教室の様子は取材出来なかったが、舞台の花台に花を生ける状況を見た限りでも、行田中学校の生徒は自信を持って行動していた。「生け花は生ける人を現す」と言われるが、内山代表の生け花に対する情熱が「花を生ける」ことを通して、生徒に伝わっていると感じられた。次世代の育成に貢献する当事業の順調な進捗を応援したい。

関わり先（連絡担当者）
湖紫菡花のサークル
代表 内山 敦子
TEL：047-424-5223

市民向けお散歩コース「船橋お散歩海道」の整備

取材日：平成23年（2011年）2月26日

【団体の活動内容】

ふなばしっふ海遊創生協議会（以下、「協議会」という。）は、船橋固有の海辺であり東京湾に残された貴重な浅瀬である三番瀬と、その恵みによって営まれる船橋漁港を、船橋の歴史文化を象徴する場として捉え、地元関係者と連携しながら、海を活かした船橋漁港付近のまちづくりを行うことを目的に、平成21年1月に設立された団体である。

その主な活動内容は、①地産地消による地域誘導モデルの構築と地域特産品の開発と販売、②船橋産が手に入り、味わうことができる「漁港市」の創出と海の街を体感できる仕掛けづくり、③海浜保全事業の普及及びCSRの促進である。



船橋港

【支援金事業】（支援対象経費総額 786,900円 支援金確定額 393,450円 支援率50%）

今回の支援金事業は、市民や来訪者が船橋の歴史文化に触れつつ楽しく散歩できるようなルートや、港町を感じることでできる拠点、市民・来訪者向けの情報提供等の課題について、地元関係者と連携を図りながら、次の3点の事業を行うとするものである。①市民向けお散歩コース「船橋お散歩海道」の整備、②景観整備・案内パネル等の設置、③船橋漁港・地産地消の市民向け情報提供である。

【期待される効果】

船橋中心街から港までのお散歩コースとしての「お散歩海道」の形成を通して、都市型エコツーリズムによる地域経済振興が図られ、地域が連携した継続的な活動のための経済基盤づくりを行うことが可能となる。また、本事業の推進によって、船橋漁港周辺の地域住民、周辺自治会、漁業関係者、商店会等の地元関係者の連携が強められ、船橋漁港エリアを中心としたシティセールスの展開並びに地域ブランド力や観光資源などの地域基盤への発展へとつながっていくことが、本事業の効果として期待されている。

【ウォークラリーの実施】

協議会はこれまでに「船橋港まつり」にあわせて、2回のウォークラリーを行い、事業の推進に向けた活動を行ってきた。第1回ウォークラリー（21年10月8日実施）は、主に船橋港まつり実行委員会やNPOとの協力を得ながら、船橋駅周辺から船橋漁港までを歩いて楽しむクイズラリーを実施し、大勢の参加者から船橋中心街から港までのお散歩コースの必要性の高い評価を得ている。2回目のウォークラリーは昨年10月9日の港まつりに合わせて行われたが、あいにくの雨のため、前回の参加者の半分にとどまった。しかしながらアンケート調査では、船橋駅から港周辺の地区に対して、水辺を楽しく歩ける魅力的な空間にすることや市民が憩えるようなスペース、楽しめるお店、にぎやかな朝市などに対する市民の期待の高さが窺えている。これらの期待に応えるためには、歩道や水辺空間といった行政側からのハード面の整備と行政・市民団体・漁業者・商店街等の互いの連携による円滑な事業実施がさらに必要不可欠なものになってきている。その観点からも、今後、協議会の担っていかねばならない役割は大変重要なものになっているといえよう。



船橋港ウォーク当日は快晴に

【取材を通して】

我々が取材した当日の「船橋港ウォーク」は、有機農業運動という市民活動をしているNGOから発展した株式会社の主催の活動で、協議会も他団体同様、活動の連携・強化を図る観点から参加しているものであった。当日、一緒に参加して感じたことは、漁業関係者等と地元住民並びに関係団体との交流体験がしっかりと行われており、これらの活動が地元船橋に対する注目や意識を盛り上げる場として大いに役立っていることがはっきりと意識されたことである。船橋にはこんな素敵な漁港があるということを全市的にもっとPRしていくことの必要性を痛感した次第である。

本支援事業の推進には漁業者、商店街、行政、市民団体等の緊密な連携と継続的な活動の取り組みがますます必要となってくるであろう。その一環として、地元自治会との連携や小学校におけるまち体験授業の実施なども行っており、着実にその成果を積み上げてきているとのことで、今後とも更なる連携・協働の強化を進めていくことに期待したい。

関わり先（連絡担当者）

ふなばしっふ海遊創生協議会

事務局 小野寺 淳

TEL：080-4000-6987

クリーンな船橋の街づくりに寄与する運動

取材日：平成23年（2011年）1月20日

【活動目的】

現在、JR船橋駅周辺ではタバコのポイ捨てが多く、これらのごみをただ処理するだけでは、ごみの減少は期待できません。船橋たばこ商業協同組合では、販売店の責任として、清掃活動や、通行人にポイ捨て禁止を呼びかける活動を通じて自粛を促し、クリーンな船橋のイメージアップを図ります。

【活動内容】(支援対象経費総額 235,000円 支援金確定額 0円 ※支援金の交付を受けず事業を実施)

JR船橋駅南口及び北口周辺にて、船橋たばこ商業協同組合婦人部による、清掃活動を毎月一回行うとともに、通行人にポイ捨て禁止の呼びかけの活動を行う。また年に数回、未成年者の喫煙防止を呼びかけるためのティッシュ配布などの街頭活動を行う。

【活動の現場から】

活動当日は、1月20日の大寒で最低気温は1度という暦通りの寒い朝でした。そんな中、午前10時に市内各地から、組合員の方13名がJR船橋駅に集まりました。お揃いの緑の帽子とエプロン・マナー向上を呼びかけた旗を掲げて、ポイ捨てタバコを中心とした清掃活動が始まります。始めてみると、次々に吸殻が目につきます。駅前のメイン道路は比較的きれいなのですが、一歩横道に入ると、道路の脇・排水溝の付近・自動販売機の近くなどに吸殻が落ちているのが目立ちます。最近ではガムがとても多いそうで、タバコの代わりにしているのでは？というお話しでした。作業を終える頃には、それぞれのごみ袋にたくさんのごみが集まりました。

清掃作業は、単に道路がきれいになるというだけでなく、吸殻を拾っている姿を見てもらう事によって、ポイ捨て防止へのアピールになっていると感じました。



清掃活動

【取材を終えて】

参加者の方のお話に「以前よりポイ捨ての吸い殻が少なくなった」との言葉が有りました。早朝から市内各地の販売店の方がそれぞれ集まり、黙々と吸い殻を集める姿は少しずつ市民に良い影響を与えている結果といえると思います。しかし「吸うな・捨てるな」と同時に、喫煙する場所を決めてルールをきちんと守ってもらうべきであり、そのためにも喫煙所の設置を検討する事も必要であると感じました。



船橋たばこ商業協同組合の皆さん

関わり先（連絡担当者） 船橋たばこ商業協同組合 理事長 佐々木 吉憲 TEL：047-438-7678
--

市民公益活動公募型支援事業 事例集発行にあたって

この事例集は、平成22年度実施事業として採択された27件の事業について、市民ボランティアの行政パートナーが中心となって事業の実施現場を訪れ、各団体から取材を行い編集しました。

編集に際しては、実施団体の行う事業の様子や熱意ができるだけ伝わるよう、取材にあたった行政パートナーがその場で実感したことを率直に記述しており、あえて統一的な体裁としていません。その分、活動に携わる市民の方々の生き生きとした姿、社会や地域のために頑張っている方々の溢れるパワーをお伝えできれば幸いです。

※行政パートナー制度：市民の持つ創意と意欲をまちづくりに活かすため、市に登録した市民が、知識や経験などを活かし、市職員と協力しながら市民協働を推進する制度（平成18年度導入）

お問い合わせは 船橋市 企画部 市民協働課
〒273-8501 船橋市湊町2-10-25
TEL：047-436-3201
E-mail：shiminkyodo@city.funabashi.chiba.jp